

資料 2

平成22年度の献血の受入に関する計画（案）の認可について

- | | |
|-------------------------|---|
| ・ 質問書 | 1 |
| ・ 平成22年度の献血の受入に関する計画（案） | 2 |

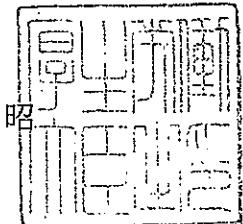
【參考資料】

- ・ 平成 21 年度献血受入計画（平成 21 年度 4 ～ 12 月） ······ 11
における取組み状況と平成 22 年度献血受入計画
の策定について

厚生労働省発薦食0310第35号
平成22年3月10日

薬事・食品衛生審議会会长
望月正隆 殿

厚生労働大臣 長妻



諮詢問書

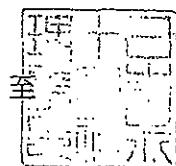
平成22年度の献血の受入れに関する計画を認可することについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第1条第3項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

血企第74号
平成22年3月8日

厚生労働大臣 長妻昭様

日本赤十字社

理事 西本



平成22年度献血受入計画について

標記については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(昭和31年法律第160号) 第11条第1項の規定に基づき提出いたします。

平成22年度献血受入計画について

平成22年度献血受入計画については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第11条及び同法律施行規則第4条に則り、各都道府県と協議し、当該年度に献血により受け入れる血液の目標量、その目標量を確保するために必要な措置に関する事項及びその他献血の受け入れに関する重要事項について、以下のとおり計画します。

1. 平成22年度に献血により受け入れる血液の目標量

平成22年度に献血により受け入れる血液の目標量については、各都道府県における過去3年の輸血用血液製剤の需要動向と原料血漿の必要量から安定供給を確保するために、全血献血で約139万リットル、血漿成分献血で約30万リットル、血小板成分献血で約33万リットルの合計約202万リットルを確保することとします。なお、都道府県別目標量については、別紙1のとおりです。

日本赤十字社では、これらの目標量を確保するために、国、地方公共団体等との連携の下に献血受入れに取り組みます。

2. 前項の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

(1) 献血受入の基本方針

①平成22年度に献血により受け入れる血液の目標量を確保するための各都道府県献血受入施設の稼動数及び目標量については、別紙2のとおりとし、医療機関の需要に応じた採血に努め、400mL及び成分献血を積極的に受入れます。

②献血者の安全性と利便性に配慮し、立地条件等を考慮した採血所の設置、移動採血車による計画的採血等、効率的な採血を行うための設備及び体制の整備・充実を継続的に実施します。また、採血所における休憩スペースの十分な確保や地域の特性に合わせたイメージ作り及び移動採血車の外観を見直す等、一層のイメージアップを図ります。

③献血者が安心して献血できるように、献血の受入れに当たっては献血者を丁寧に処遇し、不快の念を与えることのないよう、職員の教育訓練の充実強化により献血者の処遇向上を図るとともに、献血者の意見・要望を把握し、献血受入体制の改善に努めます。また、献血者の個人情報保護や献血者健康被害救済制度についても適正な運用に努めます。

④献血者の健康管理に資するため、引き続き希望者に対し生化学検査成績を、400mL、成分献血者には生化学検査成績に加えて血球計数検査成績をお知らせします。また、低比重により献血にご協力いただけなかつた献血申込者に対して健康相談等を実施し、献血者の増加を図ります。

(2) 献血者の確保対策

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため幼少期も含めた若年層、企業や団体、複数回献血者に対して普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を実施するとともに健康な高年齢層の献血受入れについても積極的に推進します。

なお、各都道府県血液センターにおける主な取り組みは、別紙3のとおりです。

①若年層を対象とした対策

- (ア) 若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いた効果的な広報施策を図ります。
- (イ) 若年層への献血の意義や血液製剤に関する理解の促進のため、都道府県、市町村及び献血推進活動を行っている献血ボランティア組織等の協力を得ながら、学校へ出向いて若年層への献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する勉強会や、血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図ります。
- (ウ) 学生献血ボランティアとの更なる連携を図り、大学等における献血推進を促します。さらに、将来の医療の担い手となる学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行ってまいります。

②献血者の年齢層に応じた献血推進対策

(ア) 20歳代後半～30歳代の女性を対象とした対策

この年代の女性については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血者が減少しているものと考えられることから、これらの方々に献血に戻ってきてもらうための取組みとして、地域の特性に応じて献血ルームに託児体制を整備する等の受入体制を整え、親子が献血にふれあう機会を設けるよう努めます。

(イ) 50歳～60歳代を対象とした対策

年齢人口に占める献血者の割合が低い傾向にあるこの年代に対して、「血液の使われ方」や「献血可能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、献血者の増加を図るよう努めます。

(ウ) 60歳以上を対象とした対策

60歳を超えた年代の献血者数が急激に減少している状況については、定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減ってしまうことや健康上の問題等が要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなど献血者の増加を図るよう努めます。

③企業等における献血の推進対策

献血に協賛する企業や団体を募り、地域の実情に即した方法で連携を図りながら、企業等における社会貢献活動の一つとして献血の推進を図ります。

④複数回献血協力者の確保

複数回献血協力者となつてもらうため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行うよう努めます。

また、複数回献血クラブ会員の中でも、特にメールを利用した会員の増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう努めます。

⑤献血推進キャンペーン等の実施

将来の献血基盤となる10代・20代の若年層献血の推進は、血液事業にとって喫緊の課題であり、広く国民への献血の普及啓発を図るため、戦略的なキャンペーン等の広報を展開します。

【平成22年度に予定されている主なキャンペーン】

- (ア) 愛の血液助け合い運動（7月）
- (イ) はたちの献血キャンペーン（1～2月）
- (ウ) LOVE in Actionプロジェクト（通年）
- (エ) いのちと献血俳句コンテスト（7月～12月）
- (オ) 全国学生クリスマス献血キャンペーン（12月）

⑥初回献血者への対応

初めて献血をする方の献血に対する不安等を払拭するため、学校献血会場において、採血後の献血者をケアする者の配置や献血の手順や献血後の過ごし方等のビデオ映像を視聴していただき、採血副作用の防止に努めます。

3. その他献血の受入れに関する重要事項

(1) 血液製剤の安全性向上のための対策

国及び都道府県と連携し健康な献血者の確保に努めます。

今後も献血者本人確認を徹底するとともに、検査目的献血の防止のための「安全で責任のある献血」の普及に努めます。さらに、問診業務の充実強化に努め、安全な献血の受入れを図ります。

(2) まれな血液型の血液確保

まれな血液型の献血者には、医療機関からの突発的な要請に対応できるよう、本人の意向を踏まえて予め登録を依頼し、必要時に献血を依頼します。

(3) 血液製剤の在庫管理と不足時の対応

赤血球製剤等の在庫予測に基づき、献血者確保対策を講じて安定供給に努めます。また、国及び都道府県にも在庫情報を提供し、万一の在庫不足時には対応手順に基づき、関係機関と連携した献血者確保方策を実施します。

(4) 災害時等における危機管理

災害時における広域的な需給調整等の手順に基づき、国、都道府県及び市町村と連携して需要に見合った献血確保及び円滑な血液供給に努めます。

(5) 献血受入計画の分析と評価

献血の受入状況について、国、都道府県及び市町村へ情報を提供します。また、その分析と評価を行い、次年度の献血受入計画の各種施策の検討に資することとします。

平成22年度に献血により受け入れる血液の目標量(日本赤十字社)

(単位:L)

No	都道府県名	全 血 献 血			成 分 献 血			合 計
		200mL	400mL	計	血漿	血小板	計	
1	北海道	6,780	77,400	84,180	3,150	15,676	18,826	103,006
2	青森	1,200	14,000	15,200	3,152	3,920	7,072	22,272
3	岩手	1,160	13,040	14,200	2,475	3,640	6,115	20,315
4	宮城	2,000	20,568	22,568	6,928	6,352	13,280	35,848
5	秋田	1,180	12,080	13,260	1,608	3,320	4,928	18,188
6	山形	1,262	10,196	11,458	2,988	1,715	4,703	16,161
7	福島	2,500	23,080	25,580	2,430	5,800	8,230	33,810
8	茨城	2,166	24,972	27,138	7,427	5,656	13,083	40,221
9	栃木	2,460	16,400	18,860	6,324	4,700	11,024	29,884
10	群馬	2,212	18,876	21,088	4,080	5,435	9,515	30,603
11	埼玉	7,014	56,112	63,126	21,502	13,060	34,562	97,688
12	千葉	6,320	55,888	62,208	17,386	12,212	29,598	91,806
13	東京	12,992	147,240	160,232	28,755	44,880	73,635	233,867
14	神奈川	878	82,132	83,010	34,830	17,824	52,654	135,664
15	新潟	1,952	21,292	23,244	5,780	5,668	11,448	34,692
16	富山	660	9,740	10,400	2,047	2,920	4,967	15,367
17	石川	880	11,080	11,960	2,475	3,960	6,435	18,395
18	福井	426	8,684	9,110	707	2,420	3,127	12,237
19	山梨	860	7,600	8,460	5,250	0	5,250	13,710
20	長野	1,902	18,576	20,478	6,735	4,735	11,470	31,948
21	岐阜	1,400	17,600	19,000	6,228	4,000	10,228	29,228
22	静岡	1,900	35,400	37,300	8,505	9,120	17,625	54,925
23	愛知	4,540	67,120	71,660	20,702	18,720	39,422	111,082
24	三重	44	14,140	14,184	6,408	3,964	10,372	24,556
25	滋賀	542	11,512	12,054	4,270	3,663	7,933	19,987
26	京都	250	31,856	32,106	4,981	7,867	12,848	44,954
27	大阪	2,780	105,600	108,380	20,160	25,112	45,272	153,652
28	兵庫	2,034	55,136	57,170	14,283	11,664	25,947	83,117
29	奈良	540	14,000	14,540	2,948	3,500	6,448	20,988
30	和歌山	686	13,392	14,078	1,616	2,924	4,540	18,618
31	鳥取	326	7,060	7,386	855	1,855	2,710	10,096
32	島根	54	6,552	6,606	1,556	1,924	3,480	10,086
33	岡山	1,120	22,628	23,748	3,112	6,672	9,784	33,532
34	広島	740	31,488	32,228	4,055	12,812	16,867	49,095
35	山口	554	17,548	18,102	1,972	3,324	5,296	23,398
36	徳島	78	8,744	8,822	1,042	2,244	3,286	12,108
37	香川	110	11,980	12,090	2,105	2,408	4,513	16,603
38	愛媛	86	17,692	17,778	2,403	3,808	6,211	23,989
39	高知	680	9,720	10,400	900	2,300	3,200	13,600
40	福岡	216	55,600	55,816	11,330	12,004	23,334	79,150
41	佐賀	48	8,568	8,616	1,797	2,064	3,861	12,477
42	長崎	780	17,480	18,260	1,440	4,080	5,520	23,780
43	熊本	200	23,480	23,680	2,747	5,080	7,827	31,507
44	大分	356	13,700	14,056	2,237	2,744	4,981	19,037
45	宮崎	60	12,400	12,460	2,583	2,960	5,543	18,003
46	鹿児島	486	19,264	19,750	3,735	3,388	7,123	26,873
47	沖縄	206	15,976	16,182	4,028	2,592	6,620	22,802
	合計	77,620	1,314,592	1,392,212	304,027	326,686	630,713	2,022,925

※山梨県の血小板成分献血目標量については、血小板製剤製造が東京都において行われているため、東京都に併せて計上している。

平成22年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための各採血所毎の目標量及び稼働数

	血液センター				献血ルーム(出張所)				移動採血車				オープン献血				目標量合計 (単位:L)	総稼働数				
	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数							
		血漿	血小板				血漿	血小板				血漿	血小板									
北海道	3,610	1,503	7,692	12,805	1,157	19,480	1,647	7,984	29,111	1,676	61,090	0	0	61,090	2,860	0	0	0	103,006	5,693		
青森	1,190	886	1,160	3,236	362	3,090	2,266	2,760	8,116	727	10,920	0	0	10,920	700	0	0	0	22,272	1,789		
岩手	0	0	0	0	0	1,997	1,611	3,148	6,756	363	12,145	864	492	13,501	981	58	0	0	20,315	1,348		
宮城	0	0	0	0	0	9,328	6,688	6,352	22,368	726	12,997	240	0	13,237	898	243	0	0	35,848	1,639		
秋田	370	567	1,200	2,137	305	4,355	667	1,814	6,836	571	8,535	374	306	9,215	465	0	0	0	18,188	1,341		
山形	0	0	0	0	0	810	2,988	1,715	5,513	362	10,648	0	0	10,648	627	0	0	0	16,161	989		
福島	1,577	1,458	3,656	6,691	626	1,240	972	2,144	4,356	362	22,763	0	0	22,763	1,487	0	0	0	33,810	2,475		
茨城	0	0	0	0	0	3,752	7,427	5,656	16,835	1,086	23,386	0	0	23,386	1,462	0	0	0	40,221	2,548		
栃木	900	2,226	2,040	5,166	363	1,540	3,402	2,320	7,262	363	15,600	216	0	15,816	1,040	820	480	340	1,640	132	29,884	1,898
群馬	0	0	0	0	0	6,968	4,080	5,435	16,483	1,010	13,954	0	0	13,954	841	166	0	0	166	9	30,603	1,860
埼玉	0	0	0	0	0	27,299	21,502	13,060	61,861	2,459	35,775	0	0	35,775	1,900	52	0	0	52	2	97,688	4,361
千葉	0	0	0	0	0	23,040	17,386	12,212	52,638	2,114	38,437	0	0	38,437	2,261	731	0	0	731	43	91,806	4,418
東京	0	0	0	0	0	89,728	28,755	44,880	163,363	4,597	51,582	0	0	51,582	2,835	18,922	0	0	18,922	1,040	233,867	8,472
神奈川	0	0	0	0	0	37,604	34,830	17,824	90,258	2,808	45,406	0	0	45,406	2,936	0	0	0	0	0	135,664	5,744
新潟	0	0	0	0	0	10,190	5,780	5,668	21,638	1,090	13,054	0	0	13,054	727	0	0	0	0	0	34,692	1,817
富山	0	0	0	0	0	1,018	2,047	2,920	5,985	363	9,382	0	0	9,382	480	0	0	0	0	0	15,367	843
石川	1,628	981	1,960	4,569	298	1,672	1,494	2,000	5,166	301	8,660	0	0	8,660	365	0	0	0	0	0	18,395	964
福井	810	707	2,420	3,937	314	0	0	0	0	0	8,066	0	0	8,066	335	234	0	0	234	4	12,237	653
山梨	0	0	0	0	0	1,080	5,050	0	6,130	363	7,380	200	0	7,580	551	0	0	0	0	0	13,710	914
長野	1,630	3,452	2,352	7,434	340	1,710	3,283	2,383	7,376	495	17,138	0	0	17,138	860	0	0	0	0	0	31,948	1,695
岐阜	1,500	2,803	2,000	6,303	313	2,040	3,425	2,000	7,465	675	15,460	0	0	15,460	900	0	0	0	0	0	29,228	1,888
静岡	252	574	615	1,441	146	4,893	7,909	8,505	21,307	1,091	32,035	23	0	32,057	1,954	120	0	0	120	8	54,925	3,199
愛知	1,948	2,684	2,154	6,786	590	24,178	18,018	16,566	58,762	2,379	43,296	0	0	43,296	2,450	2,238	0	0	2,238	70	111,082	5,489
三重	404	1,751	1,308	3,463	306	560	4,657	2,656	7,873	862	13,220	0	0	13,220	703	0	0	0	0	0	24,556	1,871
滋賀	1,453	2,201	2,223	5,877	364	383	769	720	1,872	175	10,218	1,300	720	12,238	764	0	0	0	0	0	19,987	1,303
京都	0	0	0	0	0	8,633	4,981	7,867	21,481	1,073	23,361	0	0	23,361	1,075	112	0	0	112	9	44,954	2,157
大阪	2384	1539	1942	5,865	340	32,784	18,621	23,170	74575	2921	69925	0	0	69925	4,176	3287	0	0	3,287	106	153,652	7,543
兵庫	0	0	0	0	0	19,288	14,283	11,664	45,235	1,914	37,882	0	0	37,882	1,995	0	0	0	0	0	83,117	3,909
奈良	560	698	980	2,238	207	1,844	2,250	2,520	6,614	434	12,136	0	0	12,136	670	0	0	0	0	0	20,988	1,311
和歌山	0	0	0	0	0	860	1,616	2,924	5,400	311	13,218	0	0	13,218	773	0	0	0	0	0	18,618	1,084
鳥取	696	537	1,410	2,643	250	1,536	318	445	2,299	218	5,154	0	0	5,154	284	0	0	0	0	0	10,096	752
島根	238	1,200	1,480	2,918	297	0	0	0	0	0	6,310	0	0	6,310	400	58	356	444	858	148	10,086	845
岡山	730	457	3,072	4,259	293	6,700	2,655	3,600	12,955	310	15,938	0	0	15,938	995	380	0	0	380	5	33,532	1,603
広島	0	0	0	0	0	5,236	4,055	12,812	22,103	673	26,467	0	0	26,467	1,295	525	0	0	525	25	49,095	1,993
山口	660																					

別紙2-2

平成22年度献血受入施設数及び献血受入施設整備予定等

	平成22年4月1日現在の献血受入施設数等について				平成22年度の献血受入施設整備予定について											
	血液センター (※)	献血ルーム	移動採血車	成分採血装置	血液センター	献血ルーム	移動採血車	成分採血装置	新設予定数	休廃止予定数	新設予定数	休廃止予定数	増減数	更新数	増減数	更新数
北海道	4(4)	6	12	79	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	14	
青森	2(2)	2	4	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手	1(0)	1	5	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
宮城	1(0)	2	6	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
秋田	1(1)	2	5	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形	1(0)	1	3	13	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
福島	3(3)	1	8	44	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
茨城	1(0)	3	6	32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
栃木	1(1)	1	6	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬	1(0)	3	5	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉	1(0)	7	10	77	0	0	1	0	0	0	0	0	11	14		
千葉	2(0)	6	10	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
東京	2(0)	13	19	223	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神奈川	2(0)	8	12	138	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
新潟	1(0)	3	4	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富山	1(0)	1	3	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川	1(1)	1	4	21	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
福井	1(1)	0	3	16	0	0	0	0	0	0	0	0	1	△ 1	0	0
山梨	1(0)	1	4	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長野	1(1)	2	4	33	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
岐阜	1(1)	2	4	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
静岡	3(1)	3	9	53	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
愛知	2(2)	7	11	117	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	15
三重	1(1)	3	4	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
滋賀	1(1)	1	5	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都	2(0)	3	6	34	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
大阪	3(2)	9	20	142	0	0	1	0	0	0	2	8	64			
兵庫	1(0)	6	9	76	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6	
奈良	1(1)	2	4	25	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	
和歌山	1(0)	1	5	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鳥取	1(1)	1	2	15	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	15	
島根	1(1)	0	3	15	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
岡山	1(1)	1	5	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広島	1(0)	2	6	44	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
山口	1(1)	1	5	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
徳島	1(1)	1	3	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
香川	1(0)	1	4	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
愛媛	1(0)	1	4	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
高知	1(0)	1	3	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡	3(1)	4	7	65	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	9	
佐賀	1(1)	0	2	11	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
長崎	2(1)	2	5	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
熊本	1(1)	1	5	26	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	
大分	1(0)	1	4	15	0	0	0	0	0	0	0	△ 1	1	0	1	
宮崎	1(0)	1	4	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鹿児島	1(1)	1	5	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
沖縄	1(0)	1	3	22	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
合計	65(33)	121	280	1,911	0	1	3	0	△ 1	28	20	190				

※平成22年4月1日現在の献血受入施設(血液センター)について

- ・()数は、実際に受け入れを行っている血液センター数。残りの32施設については、血液センターの立地条件等の理由により、献血ルーム、移動採血車、オープン献血により必要な献血者を確保している。

※更新とは、増減なく新たな採血車、成分採血装置に入れ替えること。

各都道府県血液センターにおける主な取り組み

①若年層を対象とした対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	献血の意義等の勉強会(学校へ出向いての説明)	小学生、中学生、高校生、その他学生
2	親子ふれあい献血	幼児、児童と父親、母親
3	プロ野球チーム、プロサッカーチーム等とコラボレーションした献血推進	高校生、大学生
4	高校卒業予定者へのリーフレット配布	高校生(卒業予定者)
5	学生ボランティアによるサマー献血、クリスマス献血キャンペーン等の実施	18歳から30歳未満の若年層

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	新規協力企業、団体の確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓発活動
2	献血ルームで協力可能な近隣企業の確保	献血ルーム近隣企業
3	緊急要請可能な待機型団体の確保	官公庁等
4	成分献血協力団体の拡大	全血献血協力団体及び少人数の企業・団体
5	ライオンズクラブ、ロータリークラブとの連携強化	県内ライオンズクラブ、ロータリークラブ

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	メールによる情報配信、献血要請、はがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員、年1回の献血者など
2	会員募集用リーフレットの作成、情報誌等の作成	400mL献血者、成分献血者
3	リラクゼーションの実施	メール会員
4	年間2回献血協力事業所の拡大	年1回の献血協力事業所
5	「ワンモア献血カード」イベント	献血ルームでの400mL、成分献血者

④その他の具体的対策 (①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	平日成分献血予約の推進	成分献血者
2	各事業所等の献血ルームへの送迎	成分献血者
3	テレビ局と共に乳がん検診と共に献血を実施	若年層ならびに初回献血者
4	65歳～69歳までの献血再来推進のため、60歳～64歳の方に葉書等により400mL献血協力を依頼	60歳～64歳の方
5	400ml献血の推進	400ml献血可能者

参考資料

平成22年3月8日

平成21年度献血受入計画（平成21年度4～12月）における取組み状況と 平成22年度献血受入計画の策定について

日本赤十字社 血液事業本部

- 1 平成21年度4～12月における各都道府県別の血液確保量、
確保目標量に対する達成率及び比較 別紙1のとおり

- 2 血液確保目標量と確保量及び供給量との比較に基づく分析

各血液センターにおける献血受入計画（平成21年度4～12月：平成21年度の受入計画を3/4したもの）の目標量150.5万Lに対する確保量は156.2万Lで、達成率は103.8%となっており、確保量が目標量を上回っています。これは、献血受入計画を基本としながらも、医療機関からの受注状況と血液の在庫状況を勘案して、安定供給を確保するため、各血液センターが状況に応じた採血を行った結果です。また、全体の血液確保量156.2万Lに対し、原料血漿及び輸血用血液製剤の合計使用量は150.2万L（使用量に対する確保率104.0%）です。6.0万L（確保量の3.8%）が未使用量として計上しておりますが、この中には検査不合格と期限切れが含まれています。

以上のことから、平成21年度は、安定供給が確保されています。なお、安定供給を確保する上で、ある程度の未使用量が発生しますが、引き続き、より一層需給管理の精度向上と需給調整による有効活用を図ってまいります。

- 3 血液製剤の安定供給等に係る取組み

輸血用血液製剤の在庫の過不足の早期把握、安定的な供給を図るための必要な措置の検討と実施及び需給計画の検証を行うため、血液事業本部及び血液センターにおいては次の取組みを行っています。

（1）血液事業本部の取組み

血液事業本部においては、献血者確保及び血液製剤の供給等について審議する「血液事業推進委員会」を設置しています。特に輸血用血液製剤の安定供給を確保するため、同委員会の下に「安定供給促進小委員会」（原則毎週金曜日開催）を設置し、全国の輸血用血液製剤の需給状況及び原料血漿の確保状況を把握し、安

定供給を実現・維持するための対応策の検討を行い、各血液センターへの指示・監視・指導を実施しています。

（2）各血液センターの取組み

各血液センターにおいては、「需給計画委員会」（原則毎週開催）を設置し、採血・製造・供給の予測に基づく在庫シミュレーションによる赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の需給計画の検証を行い、基本となる献血受入計画に調整を加え、翌月・翌々月の中長期的需給計画を策定しています。

また、基幹センターは、上記の血液センターとしての対応に加え、管内血液センターの需給状況（採血・製造・供給状況等）の把握、需給計画の検証及び指導を行うとともに必要に応じて血液の需給調整を行っています。

（3）在庫量の情報管理と危機管理対応

① 血液事業本部は、休日を除く毎日、午前6時現在の全国各血液センターの赤血球製剤の在庫を把握（別紙2）し、注意報水準・警報水準に陥らないよう常に全国の需給状況を確認するとともに、赤血球製剤の在庫状況を厚生労働省へ報告しています。

また、各血液センターからは各都道府県及び各都道府県支部へ同様に情報提供しています。

② 注意報水準あるいは警報水準に陥った血液センターについては、「危機管理水準の情報報告書」により危機管理水準の現況、それに至るまでに講じた方策等を、基幹センターを通じて血液事業本部へ提出させ、それを受けた血液事業本部は「危機管理水準の対応指示書」により具体的な対策等を指示しています。

平成21年度については、注意報水準が7回発生していますが、全て一過性のもので、需給調整等の早急な対応により翌日には回避しております（警報水準発生はなし）。

③ さらに、需給予測によって血液不足が見込まれる血液センターについては、今後の採血計画の見直しや増班体制などの具体的な対策を講じるよう指示しています。

④ また、平成17年4月に本社及び各血液センターに献血推進本部を設置し、万一、安定供給の確保が懸念される場合には、国及び都道府県と連携して迅速に効果的な対応がとれる体制を整備しています。

(4) 冬季・春季献血者確保対策

平成21年10月、平成22年1月に基幹センター献血推進・供給担当課長会議を開催し、赤血球製剤の在庫が全国的に逼迫する冬季及び春季の在庫予測シミュレーション等に基づき、進捗状況確認及び対策の検討を行いました。

また、各基幹センターにおいても管内の血液センターを招集し、そこに血液事業本部からも職員を派遣して冬季・春季献血者確保対策の検討を行いました。

4 平成21年度献血受入計画の進捗状況

平成21年度献血受入計画として、核となる対策と取組みを血液事業本部から各血液センターへ指示し、各血液センターでは都道府県との連携のもとに受入計画を策定・実施しています。なお、その対策と各血液センターにおける主な取組みの実施状況は次のとおりです。

(1) 若年層を対象とした対策

- ・ 小中高生を対象とした血液センター等の見学受入れの推進（体験学習を通じて献血に触れ合う機会を創出し、献血への理解を求める）

＜平成20年度実績＞

実施回数636回 参加人数28,200人

＜平成21年度上半期実績＞

実施回数358回 参加人数16,060人

- ・ 10代後半から30代前半の若年層を対象に献血への理解促進を図るために血液センター施設などを利用し、血液事業の紹介等のセミナーを開催

＜平成20年度実績＞

実施回数363回 参加人数37,438人

＜平成21年度上半期実績＞

実施回数197回 参加人数9,616人

(2) 企業・団体における献血の推進対策

- ・ 新規協力企業及び団体の開拓
- ・ 献血ルームや移動献血会場への協力企業の開拓
- ・ ロゴマークの活用（ロゴマーク取得促進のための専用ウェブサイトの運営、ステッカー配布など）

＜平成20年度実績＞

ロゴマーク配布数1,069件 協賛企業・団体数4,340件

（ロゴマーク配布数の平成19年2月からの累計は38,399件を超えた）

<平成21年度上半期実績>

ロゴマーク配布数1,232回 協賛企業・団体数1,652件

(3) 複数回献血者確保対策

- ・ 「複数回献血クラブ」会員の募集を増強
- ・ 「複数回献血クラブ」会員への献血依頼及び理解促進のための情報提供を実施

<平成21年度上半期実績>

複数回献血クラブ会員数227,503人（平成18年度末より156,703人増）

<献血実人数に占める複数回献血者の割合>

（平成20年4月1日～平成21年3月31日実績：30.3%（前年同比0.8%上昇））

(4) 目標量を確保するための全般的な対策

(献血受入体制への取組み)

献血者が安心して献血できるように、職員の教育訓練の充実強化を図るため、全国研修会を開催

(広報活動への取組み)

- ・ 7月「愛の血液助け合い運動」
- ・ 7～12月「第4回いのちと俳句コンテスト」
- ・ 10月～3月「LOVE in Actionプロジェクト」
- ・ 12月「クリスマスキャンペーン」
- ・ 1～2月「はたちの献血」
- ・ 3～4月「春の献血キャンペーン」

を全国で展開しました。この他、血液センターが独自に、「ティーンズドナーキャンペーン」、「彩の国献血フォーラム」、地元プロ野球チームやJリーグプロサッカーチームの協力のキャンペーン等を実施

- ・ ポスター、テレビ・ラジオCM素材、新聞折込、キャンペーン専用サイト等インターネットを活用した広報を実施
- ・ AED講習会と併せた献血実施

(血液センターにおける献血者確保への取組み)

- ・ 複数回献血クラブ会員等へ献血を依頼し、需要に見合った採血を実施
- ・ 需要に応じた400mL献血を推進
- ・ 需給予測に基づく、受付時間延長や献血バス派遣を増やす等の措置を実施
- ・ 新規献血協力団体の開拓を行うとともに、既存協力団体の献血実施回数の増加を依頼

- ・事業所で幹部職員を対象に事前に説明会を開催し、社員に対する献血協力の呼びかけに協力いただいた
- ・企業と地元自治会との献血の共同開催
- ・大型ショッピングセンターにおける定期的な献血の実施
- ・インターネットや新聞紙上における協力団体のお礼紹介

5 平成22年度献血受入計画の策定

(1) 当該年度に献血により受け入れる血液の目標量

各血液センターにおける平成 20 年度供給数の実績と平成 21 年度上半期の供給数を中心に、過去 3 年の供給動向（別紙 3）から傾向を分析し、当該年度の供給数を見込み、都道府県との協議のうえ、献血の目標量を算定しました。

(2) 前号の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

- ・献血受入体制の策定

各血液センターにおいては、献血の目標量を確保するため、献血種別にも配慮しながら、過去の献血実績に基づき、施設別（献血ルーム、献血バス、出張採血）の月別、週別、日別の献血受入体制を策定しています。

これらをもって、都道府県と献血受入計画等を協議し、基礎となる年間の献血バスの配車計画等を定めています。

- ・献血者の確保対策

血液事業本部では、献血者の確保に関する基本的対策について、国的基本方針及び献血推進計画に呼応した献血者確保対策を基本とし、各血液センターへ指示しています。

血液センターでは、血液事業本部の指示による献血者確保対策を基本としながらも、それぞれの地域事情を反映した「都道府県献血推進計画」と連携した献血者確保の取組みを計画しています。

一年を通して安定供給を維持するためには、地道な日々の取組みの積み重ねによる献血者の確保によるところが大きいと言えます。また、不足が予測される場合には早めの対応が重要です。各血液センターで実施されている各種取組みは、これまで過去に行ってきた取組みの中でも効果的なものが継続的に実施されています。

平成 21 年度の赤血球製剤の在庫推移は、別紙 4 のとおりです。

平成 22 年度の各血液センターにおける献血者の確保対策については、別紙 5 のとおり血液事業本部が示した基本となる確保対策項目に、各血液センター自らが数値目標を設定し、具体的取組みの進捗状況を評価することとしています。

なお、血液事業本部においては、各地の情報を収集し、全国会議等において各地

の取組み事例を紹介する機会を設け、また、各地の取組みを月間情報として配布する等、献血者確保のための情報共有を図っています。

（3）その他献血の受入れに関する重要事項

血液事業本部では、国的基本方針及び献血推進計画に基づき、日本赤十字社として、これら方針及び計画に沿った献血の受入れに関する重要事項について、計画しています。

各都道府県別血液確保量等一覧（平成21年4～12月）

単位:L

No.	都道府県名	血液確保量				血液使用量				献血量-使用量	
		受入計画量 A	献血量 B	B-A	計画達成率 B/A	供給量 自センター+他 センターへの払	原料血漿 送付量	計 C	B/C	未使用量 D=B-C	率 D/B
1	北海道	74,413	83,259.82	8,847	111.9%	42,649	33,428	76,078	109.4%	7,182	8.6%
2	青森県	16,886	15,972.68	△ 914	94.6%	7,182	8,496	15,678	101.9%	295	1.8%
3	秋田県	13,922	14,366.81	445	103.2%	6,759	6,423	13,183	109.0%	1,184	8.2%
4	福島県	24,028	25,883.77	1,856	107.7%	11,966	12,551	24,517	105.6%	1,367	5.3%
5	茨城県	30,369	28,298.90	△ 2,070	93.2%	12,738	14,754	27,493	102.9%	806	2.8%
6	栃木県	22,128	23,493.68	1,366	106.2%	9,852	12,770	22,622	103.9%	871	3.7%
7	群馬県	22,902	24,684.28	1,782	107.8%	10,371	13,731	24,102	102.4%	582	2.4%
8	千葉県	66,692	68,541.30	1,850	102.8%	31,459	35,130	66,589	102.9%	1,952	2.8%
9	神奈川県	99,589	99,372.91	△ 216	99.8%	41,251	61,161	102,412	97.0%	△ 3,039	-3.1%
10	新潟県	26,477	28,466.49	1,990	107.5%	11,838	14,658	26,495	107.4%	1,971	6.9%
11	静岡県	41,582	41,443.11	△ 139	99.7%	16,787	22,597	39,385	105.2%	2,058	5.0%
12	京都府	31,996	35,051.82	3,056	109.6%	16,150	17,156	33,306	105.2%	1,745	5.0%
13	奈良県	16,169	16,414.45	246	101.5%	7,413	7,791	15,203	108.0%	1,211	7.4%
14	山口県	17,748	18,039.18	291	101.6%	8,703	8,847	17,550	102.8%	489	2.7%
15	愛媛県	17,459	19,172.25	1,714	109.8%	8,461	9,187	17,649	108.6%	1,524	7.9%
16	沖縄県	17,648	17,978.93	331	101.9%	8,796	7,975	16,771	107.2%	1,208	6.7%
製造所単位	宮城 1(岩手、山形)	53,774	54,704.75	930	101.7%	23,552	29,237	52,789	103.6%	1,916	3.5%
	埼玉(長野)	94,740	99,453.70	4,714	105.0%	40,182	57,842	98,024	101.5%	1,429	1.4%
	3 東京(山梨)	185,939	189,514.85	3,576	101.9%	88,790	97,039	185,828	102.0%	3,686	1.9%
	石川 4(富山、福井)	35,678	37,103.01	1,425	104.0%	15,958	19,707	35,666	104.0%	1,437	3.9%
	愛知 5(岐阜、三重)	121,921	130,725.67	8,805	107.2%	53,139	73,615	126,754	103.1%	3,972	3.0%
	6 兵庫(滋賀)	77,591	75,654.66	△ 1,937	97.5%	33,859	37,160	71,019	106.5%	4,635	6.1%
	7 大阪(和歌山)	127,505	133,856.74	6,352	105.0%	63,128	63,412	126,540	105.8%	7,317	5.5%
	8 岡山(鳥取)	31,666	33,348.77	1,683	105.3%	15,795	15,431	31,226	106.8%	2,122	6.4%
	9 広島(島根)	44,701	47,025.96	2,325	105.2%	20,724	23,864	44,588	105.5%	2,438	5.2%
	香川 10(徳島、高知)	31,992	33,890.67	1,899	105.9%	16,761	17,376	34,137	99.3%	△ 247	-0.7%
	(佐賀、長崎、熊本、 大分、宮崎、鹿児 島) 11	159,551	166,318.42	6,767	104.2%	72,867	83,465	156,331	106.4%	9,987	6.0%
合計		1,505,062	1,562,038	56,976	103.8%	697,132	804,804	1,501,937	104.0%	60,101	3.8%

※受入計画量は、平成21年度受入計画を3／4したもの。

平成21年4～12月各都道府県別献血者数一覧

単位:人

No.	都道府県名	献血者数					年代別献血者数						
		血小板献血	血漿献血	400mL献血	200mL献血	合計	16～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	合計
1	北海道	31,154	11,823	146,066	27,968	217,011	13,613	39,855	50,793	50,827	42,869	19,054	217,011
2	青森県	6,997	5,000	24,591	6,108	42,696	3,274	8,279	11,014	10,661	7,256	2,212	42,696
3	岩手県	6,651	6,260	22,587	8,091	43,589	4,571	8,811	10,505	9,604	7,785	2,313	43,589
4	宮城県	11,184	13,034	36,551	8,481	69,250	5,885	18,372	17,556	15,648	9,145	2,644	69,250
5	秋田県	6,632	4,275	21,268	6,947	39,122	3,789	8,713	10,415	8,967	5,828	1,410	39,122
6	山形県	3,602	3,774	18,366	6,844	32,586	3,685	6,860	7,990	7,549	5,221	1,281	32,586
7	福島県	9,893	8,133	39,980	10,468	68,474	3,777	12,630	18,088	17,263	13,129	3,587	68,474
8	茨城県	10,130	11,290	40,664	12,600	74,684	5,550	13,627	19,045	18,481	12,975	5,006	74,684
9	栃木県	8,833	11,994	30,656	11,319	62,802	7,997	12,808	16,976	13,535	8,747	2,739	62,802
10	群馬県	9,908	10,970	35,102	9,340	65,320	5,462	12,500	18,546	16,507	9,320	2,985	65,320
11	埼玉県	25,839	38,660	97,066	34,761	196,326	17,331	39,978	51,488	45,793	28,793	12,943	196,326
12	千葉県	23,134	35,164	94,867	30,377	183,542	13,789	38,499	49,367	43,546	26,875	11,466	183,542
13	東京都	82,753	73,382	254,489	52,056	462,680	32,134	135,698	123,978	98,493	52,314	20,063	462,680
14	神奈川県	31,583	66,103	142,599	3,037	243,322	10,254	51,467	67,280	64,278	35,769	14,274	243,322
15	新潟県	11,085	12,582	40,592	8,138	72,397	5,251	16,675	18,509	16,708	11,945	3,309	72,397
16	富山県	5,142	3,924	18,178	2,752	29,996	1,417	6,180	9,016	7,310	4,567	1,506	29,996
17	石川県	7,855	5,978	21,212	3,887	38,932	1,850	8,669	10,871	9,323	6,008	2,211	38,932
18	福井県	4,294	2,798	16,434	1,819	25,345	1,051	4,747	6,351	6,494	5,019	1,683	25,345
19	山梨県	0	8,409	14,753	3,145	26,307	2,603	5,331	6,565	6,496	3,962	1,350	26,307
20	長野県	7,764	11,769	33,336	8,447	61,316	2,784	11,405	17,462	16,271	9,943	3,451	61,316
21	岐阜県	8,917	12,532	29,257	6,676	57,382	2,703	9,829	14,392	14,806	10,722	4,930	57,382
22	静岡県	16,924	17,464	63,800	6,781	104,969	4,977	20,123	28,803	27,795	17,525	5,746	104,969
23	愛知県	34,551	53,334	126,962	20,926	235,773	13,333	58,149	65,391	55,500	31,896	11,504	235,773
24	三重県	7,112	8,592	27,280	58	43,042	1,239	7,441	12,645	12,627	7,008	2,082	43,042
25	滋賀県	5,843	5,437	20,726	2,444	34,450	1,213	6,727	9,395	8,518	6,044	2,553	34,450
26	京都府	13,612	14,739	56,957	889	86,197	4,144	21,515	20,409	19,171	13,987	6,971	86,197
27	大阪府	46,007	47,167	192,508	13,781	299,463	9,851	57,545	80,084	77,248	48,975	25,760	299,463
28	兵庫県	23,058	23,235	100,179	9,909	156,381	6,828	31,136	41,332	38,677	26,833	11,575	156,381
29	奈良県	6,215	6,304	26,267	2,708	41,494	2,119	8,554	10,331	10,327	7,513	2,650	41,494
30	和歌山县	4,547	3,402	23,396	2,481	33,826	1,422	5,327	8,685	9,042	6,533	2,817	33,826
31	鳥取県	3,828	1,048	12,387	1,523	18,786	583	4,059	5,340	4,905	3,199	700	18,786
32	島根県	4,669	2,082	13,351	263	20,365	567	3,801	5,784	5,534	3,682	997	20,365
33	岡山県	10,773	8,803	41,375	4,692	65,643	2,747	13,525	16,955	15,840	11,592	4,984	65,643
34	広島県	22,295	14,399	57,953	3,158	97,805	4,202	20,423	27,260	24,251	15,682	5,987	97,805
35	山口県	6,201	4,813	32,130	2,690	45,834	1,549	7,677	12,312	11,710	9,205	3,381	45,834
36	徳島県	4,424	3,079	16,875	225	24,603	681	4,814	6,709	6,044	4,905	1,450	24,603
37	香川県	4,455	3,754	22,218	454	30,881	1,283	6,059	8,602	7,502	5,503	1,932	30,881
38	愛媛県	8,252	6,415	31,935	349	46,951	1,683	9,890	12,719	11,540	8,212	2,907	46,951
39	高知県	4,882	3,720	16,851	3,878	29,331	1,655	6,238	7,714	6,747	5,114	1,863	29,331
40	福岡県	20,591	22,235	104,944	151	147,921	7,076	33,149	37,509	33,166	24,986	12,035	147,921
41	佐賀県	3,887	5,387	17,215	128	26,617	1,037	5,365	7,146	6,529	4,923	1,617	26,617
42	長崎県	8,011	5,940	32,706	2,861	49,518	2,862	10,082	12,428	12,159	9,246	2,741	49,518
43	熊本県	9,394	7,938	45,039	791	63,162	2,738	13,325	16,026	15,261	12,103	3,709	63,162
44	大分県	4,946	5,518	24,831	1,190	36,485	1,688	6,704	10,308	9,090	6,455	2,240	36,485
45	宮崎県	4,791	5,802	23,829	489	34,911	1,252	6,610	9,412	8,906	6,633	2,098	34,911
46	鹿児島県	6,763	8,643	37,356	2,310	55,072	2,616	11,859	14,259	13,278	10,098	2,962	55,072
47	沖縄県	5,022	9,076	30,025	730	44,853	2,505	11,037	14,093	10,282	5,900	1,036	44,853
計		604,403	656,180	2,377,709	349,120	3,987,412	230,620	862,067	1,057,858	960,209	631,944	244,714	

平成20年度各都道府県別血液確保量等一覧

単位:L

No.	都道府県名	血液確保量				血液使用量				献血量-使用量	
		献血受入計画量		献血量	計画達成率 B/A	供給量	原料血漿 送付量	計 C	B/C	未使用量 D=B-C	率 D/B
		平成20年度 A	平成20年度 B	B-A		自センター+他 センターへの払					
1	北海道	99,035	104,231.79	5,197	105.2%	53,138	44,679.1	97,817	106.6%	6,414	6.2%
2	青森県	22,815	21,544.35	△ 1,271	94.4%	9,479	10,799.5	20,278	106.2%	1,266	5.9%
3	岩手県	19,653	20,375.69	723	103.7%	8,461	10,979.4	19,440	104.8%	935	4.6%
4	宮城県	35,673	34,679.63	△ 993	97.2%	21,406	27,608.7	49,015	70.8%	△ 14,335	-41.3%
5	秋田県	18,136	18,299.39	163	100.9%	8,648	8,828.2	17,476	104.7%	823	4.5%
6	山形県	16,010	14,750.86	△ 1,259	92.1%	809	0.0	809	1823.7%	13,942	94.5%
7	福島県	31,369	34,034.29	2,665	108.5%	15,667	16,108.1	31,775	107.1%	2,259	6.6%
8	茨城県	40,294	38,198.61	△ 2,095	94.8%	16,785	20,142.3	36,928	103.4%	1,271	3.3%
9	栃木県	28,968	30,101.74	1,134	103.9%	12,881	15,995.5	28,876	104.2%	1,226	4.1%
10	群馬県	30,973	31,843.09	870	102.8%	13,628	17,183.0	30,811	103.3%	1,032	3.2%
11	埼玉県	93,710	96,470.10	2,760	102.9%	45,625	63,954.8	109,579	88.0%	△ 13,109	-13.6%
12	千葉県	87,823	86,613.71	△ 1,209	98.6%	39,977	43,883.2	83,860	103.3%	2,753	3.2%
13	東京都	229,283	225,157.72	△ 4,125	98.2%	109,092	115,777.2	224,869	100.1%	289	0.1%
14	神奈川県	125,610	126,199.88	590	100.5%	50,873	74,728.8	125,602	100.5%	598	0.5%
15	新潟県	35,078	37,864.10	2,786	107.9%	15,232	20,160.8	35,393	107.0%	2,472	6.5%
16	富山県	15,680	14,148.96	△ 1,531	90.2%	6,166	9,045.5	15,212	93.0%	△ 1,063	-7.5%
17	石川県	18,746	16,059.63	△ 2,686	85.7%	8,947	9,619.9	18,567	86.5%	△ 2,507	-15.6%
18	福井県	12,114	20,298.67	8,185	167.6%	6,045	6,963.3	13,009	156.0%	7,290	35.9%
19	山梨県	13,007	13,089.65	83	100.6%	2,640	1,835.1	4,475	292.5%	8,614	65.8%
20	長野県	31,110	30,546.19	△ 564	98.2%	6,643	5,753.4	12,396	246.4%	18,150	59.4%
21	岐阜県	30,273	28,371.15	△ 1,902	93.7%	4,323	2,223.2	6,546	433.4%	21,825	76.9%
22	静岡県	54,161	54,272.21	111	100.2%	22,469	30,076.9	52,546	103.3%	1,726	3.2%
23	愛知県	106,224	114,597.34	8,373	107.9%	54,258	74,778.7	129,037	88.8%	△ 14,439	-12.6%
24	三重県	24,371	23,858.97	△ 512	97.9%	9,395	14,317.4	23,712	100.6%	147	0.6%
25	滋賀県	19,980	17,672.27	△ 2,308	88.4%	4,453	2,701.9	7,155	247.0%	10,517	59.5%
26	京都府	41,285	44,423.26	3,138	107.6%	20,840	21,306.2	42,146	105.4%	2,277	5.1%
27	大阪府	148,395	156,334.73	7,940	105.4%	81,483	83,303.0	164,786	94.9%	△ 8,451	-5.4%
28	兵庫県	80,964	78,999.42	△ 1,965	97.6%	40,836	45,201.4	86,037	91.8%	△ 7,038	-8.9%
29	奈良県	22,025	20,547.13	△ 1,478	93.3%	9,547	9,850.1	19,397	105.9%	1,150	5.6%
30	和歌山县	17,915	16,360.49	△ 1,555	91.3%	0	0.0	0	-	16,360	100.0%
31	鳥取県	9,851	9,368.55	△ 482	95.1%	1,572	840.9	2,413	388.3%	6,956	74.2%
32	島根県	10,510	9,925.60	△ 584	94.4%	667	0.0	667	1488.1%	9,259	93.3%
33	岡山県	31,955	33,349.18	1,394	104.4%	19,377	19,111.2	38,488	86.6%	△ 5,139	-15.4%
34	広島県	48,855	48,925.81	71	100.1%	26,032	29,810.3	55,843	87.6%	△ 6,917	-14.1%
35	山口県	23,850	24,146.82	297	101.2%	11,172	11,372.4	22,545	107.1%	1,602	6.6%
36	徳島県	12,450	12,768.57	319	102.6%	5,400	6,377.8	11,777	108.4%	991	7.8%
37	香川県	16,350	16,525.95	176	101.1%	7,903	7,814.0	15,717	105.1%	809	4.9%
38	愛媛県	22,818	24,217.93	1,400	106.1%	11,040	11,454.0	22,494	107.7%	1,724	7.1%
39	高知県	13,275	13,467.52	193	101.5%	6,130	6,135.4	12,265	109.8%	1,203	8.9%
40	福岡県	76,784	78,732.87	1,949	102.5%	90,505	111,412.3	201,917	39.0%	△ 123,184	-156.5%
41	佐賀県	13,795	14,555.99	761	105.5%	0	0.0	0	-	14,556	100.0%
42	長崎県	22,875	23,840.86	966	104.2%	1,422	0.0	1,422	1676.0%	22,418	94.0%
43	熊本県	31,489	32,805.48	1,316	104.2%	2,261	0.0	2,261	1451.1%	30,545	93.1%
44	大分県	18,482	18,919.72	438	102.4%	1,196	0.0	1,196	1581.6%	17,723	93.7%
45	宮崎県	17,930	18,713.47	783	104.4%	1,010	0.0	1,010	1853.5%	17,704	94.6%
46	鹿児島県	27,171	28,202.67	1,032	103.8%	2,933	0.0	2,933	961.6%	25,270	89.6%
47	沖縄県	22,883	23,679.50	797	103.5%	11,244	10,601.0	21,845	108.4%	1,835	7.7%
計		1,972,003	2,002,092	30,089	101.5%	899,609	1,022,734	1,922,342	104.1%	79,749	4.0%

*血液使用量が「0」または少量の県については、製剤業務集約の関係からである。

*未使用量がマイナス△表示されている県については、製剤業務集約の関係からである。

平成20年度各都道府県別献血者数一覧

単位:人

No.	都道府県名	献血者数					年代別献血者数						
		血小板献血	血漿献血	400mL献血	200mL献血	合計	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	合計
1	北海道	37,223	14,388	183,295	38,895	273,801	17,024	52,040	66,281	62,540	53,607	22,309	273,801
2	青森県	8,637	7,189	33,637	8,183	57,646	4,684	11,758	15,025	14,077	9,535	2,567	57,646
3	岩手県	9,018	7,922	29,302	8,936	55,178	5,621	11,903	13,462	12,061	9,548	2,583	55,178
4	宮城県	14,797	16,449	48,164	12,058	91,468	8,816	25,591	23,245	19,615	11,218	2,983	91,468
5	秋田県	8,783	5,517	26,833	8,262	49,395	4,687	11,326	13,406	11,309	7,137	1,530	49,395
6	山形県	4,661	3,930	23,866	8,053	40,510	4,313	8,540	10,094	9,545	6,546	1,472	40,510
7	福島県	12,561	10,951	52,633	14,376	90,521	5,048	17,330	24,540	22,750	16,681	4,172	90,521
8	茨城県	14,503	14,718	54,907	16,207	100,335	7,663	18,522	27,298	24,370	16,644	5,838	100,335
9	栃木県	11,676	14,294	39,719	15,684	81,373	11,263	17,175	22,059	16,984	10,550	3,342	81,373
10	群馬県	14,603	13,017	44,799	11,800	84,219	6,970	16,715	25,001	20,032	11,675	3,826	84,219
11	埼玉県	30,708	50,758	122,501	44,475	248,442	22,936	51,412	66,458	55,142	36,486	16,008	248,442
12	千葉県	30,459	39,315	122,849	40,266	232,889	18,279	51,434	64,484	52,340	32,879	13,473	232,889
13	東京都	105,911	90,763	318,154	69,071	583,899	38,674	174,017	162,245	119,714	65,000	24,249	583,899
14	神奈川県	41,150	79,093	184,989	5,301	310,533	12,987	67,270	90,250	77,817	44,803	17,406	310,533
15	新潟県	14,098	18,144	52,720	11,183	96,145	7,998	23,251	24,765	21,267	15,010	3,854	96,145
16	富山県	7,212	5,278	23,315	5,616	41,421	2,615	8,751	12,210	9,556	6,279	2,010	41,421
17	石川県	10,036	6,627	30,067	6,132	52,862	2,839	12,117	15,032	12,337	7,979	2,558	52,862
18	福井県	5,618	3,230	21,968	3,240	34,056	1,261	6,599	8,933	8,992	6,398	1,873	34,056
19	山梨県	0	11,500	19,437	4,318	35,255	3,696	7,439	9,056	8,434	4,939	1,691	35,255
20	長野県	10,935	15,545	43,885	9,681	80,046	3,638	15,539	23,316	20,951	12,557	4,045	80,046
21	岐阜県	11,279	15,757	38,980	7,501	73,517	3,236	13,081	18,930	18,746	13,711	5,813	73,517
22	静岡県	23,571	20,921	81,396	14,477	140,365	7,567	27,970	39,982	34,941	22,564	7,341	140,365
23	愛知県	44,919	65,151	157,879	28,344	296,293	17,040	74,746	84,879	66,910	39,265	13,453	296,293
24	三重県	10,875	11,812	35,970	87	58,744	1,563	10,781	17,744	16,721	9,402	2,533	58,744
25	滋賀県	7,792	6,543	27,017	4,018	45,370	1,706	8,852	12,468	10,913	8,316	3,115	45,370
26	京都府	17,319	18,271	72,373	1,203	109,166	5,369	27,970	26,246	23,736	17,685	8,160	109,166
27	大阪府	58,859	58,901	252,514	21,887	392,161	14,130	80,692	109,007	95,622	62,247	30,463	392,161
28	兵庫県	28,273	28,826	129,923	14,006	201,028	9,018	41,451	54,698	48,346	34,052	13,463	201,028
29	奈良県	8,311	6,885	33,739	3,384	52,319	3,043	10,811	12,903	12,770	9,558	3,234	52,319
30	和歌山县	5,307	4,071	28,765	4,269	42,412	1,631	6,936	11,183	11,203	8,224	3,235	42,412
31	鳥取県	5,005	1,385	15,843	1,640	23,873	788	5,448	6,758	6,024	4,057	798	23,873
32	島根県	6,059	2,513	15,918	337	24,827	837	4,918	7,176	6,660	4,239	997	24,827
33	岡山県	12,858	11,125	54,988	5,702	84,673	3,716	18,383	22,672	19,633	14,402	5,867	84,673
34	広島県	27,155	17,413	73,868	5,718	124,154	5,419	26,592	35,560	29,837	19,718	7,028	124,154
35	山口県	8,161	6,502	42,761	4,368	61,792	2,184	11,160	16,986	15,117	12,273	4,072	61,792
36	徳島県	5,511	3,142	22,523	334	31,510	904	6,509	8,933	7,593	5,962	1,609	31,510
37	香川県	6,430	4,754	28,951	1,063	41,198	1,810	8,284	11,558	9,917	7,423	2,206	41,198
38	愛媛県	9,797	8,213	40,901	581	59,492	1,999	13,312	16,665	14,257	10,070	3,189	59,492
39	高知県	5,420	3,639	20,266	6,553	35,878	2,219	7,843	9,517	8,036	6,260	2,003	35,878
40	福岡県	27,674	26,965	138,849	292	193,780	9,461	43,715	50,751	42,578	33,066	14,209	193,780
41	佐賀県	5,562	6,363	24,148	212	36,285	1,602	7,549	10,017	8,770	6,598	1,749	36,285
42	長崎県	11,308	6,170	39,627	4,511	61,616	3,729	12,727	16,197	15,060	10,926	2,977	61,616
43	熊本県	13,445	10,000	58,165	1,319	82,929	3,657	18,458	21,522	19,821	15,078	4,393	82,929
44	大分県	6,567	6,981	32,494	1,118	47,160	2,261	9,409	13,283	11,469	8,142	2,596	47,160
45	宮崎県	6,866	7,349	31,189	970	46,374	1,734	9,625	12,590	11,439	8,388	2,598	46,374
46	鹿児島県	8,610	10,420	48,534	3,662	71,226	3,824	15,513	18,321	17,197	12,862	3,509	71,226
47	沖縄県	6,805	11,571	39,524	1,576	59,476	3,560	15,246	19,009	13,190	7,285	1,186	59,476
計		782,327	810,271	3,064,145	480,869	5,137,612	30						

血液製剤の在庫状況(血液センター別)

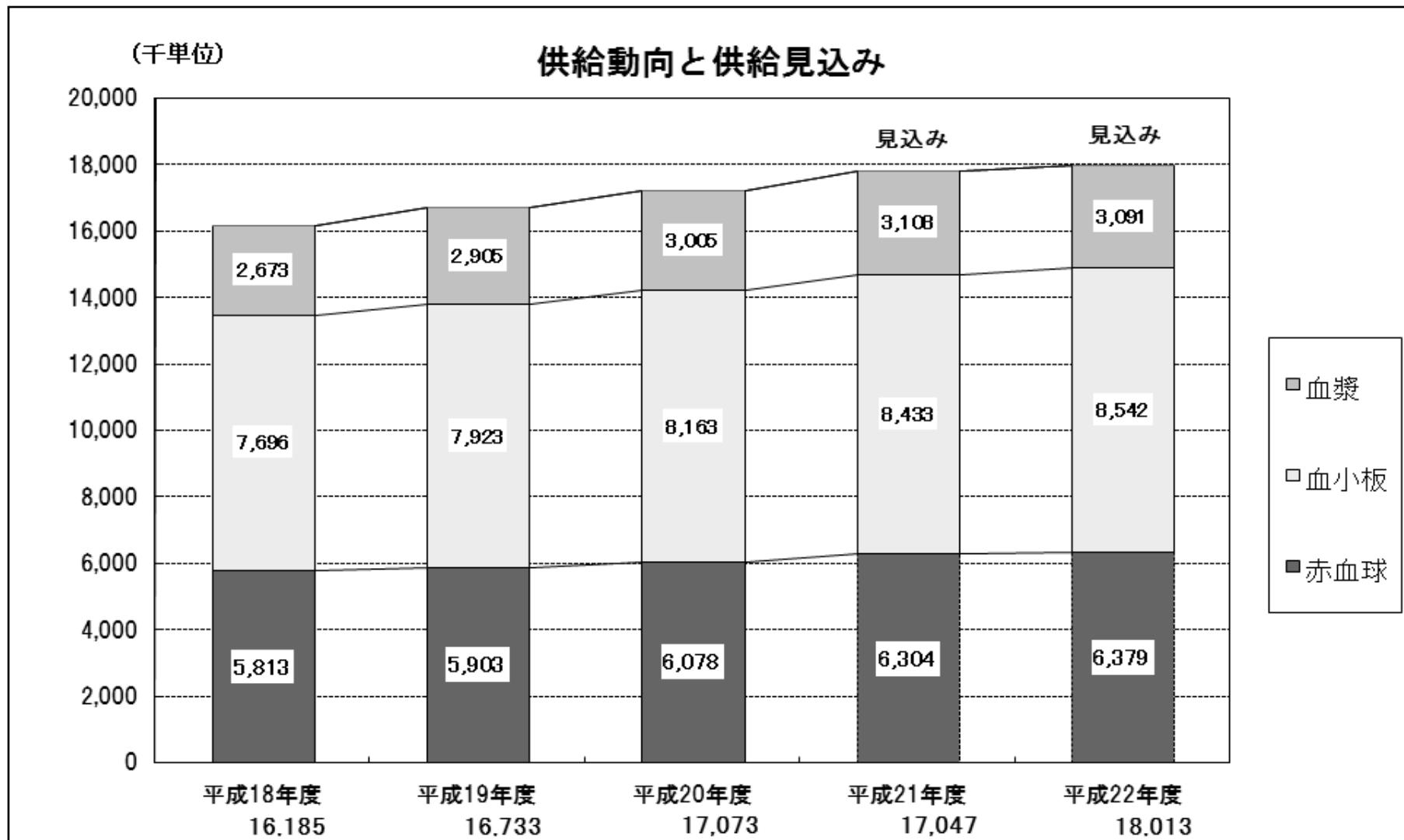
2010/3/5 6:00 AM

単位:(換算本数)

センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)				センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)				センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)			
		適正在庫数	実在庫数	差	保有率			適正在庫数	実在庫数	差	保有率			適正在庫数	実在庫数	差	保有率
北海道	A	1,570	1,683	113	107%	富山	A	208	240	32	115%	滋賀	A	230	359	129	156%
	O	1,370	1,452	82	106%		O	156	180	24	115%		O	180	206	26	114%
	B	1,010	1,389	379	138%		B	104	122	18	117%		B	120	205	85	171%
	AB	550	829	279	151%		AB	52	61	9	117%		AB	80	143	63	179%
	合計	4,500	5,353	853	119%		合計	520	603	83	116%		合計	610	913	303	150%
	A	1,570	1,683	113	107%	石川	A	245	455	210	186%	京都	A	570	1,011	441	177%
	O	1,370	1,452	82	106%		O	210	312	102	149%		O	450	777	327	173%
	B	1,010	1,389	379	138%		B	165	253	88	153%		B	325	631	306	194%
	AB	550	829	279	151%		AB	80	129	49	161%		AB	155	322	167	208%
	ブロック計	4,500	5,353	853	119%		合計	700	1,149	449	164%		合計	1,500	2,741	1,241	183%
青森	A	240	309	69	129%	福井	A	170	192	22	113%	大阪	A	1,880	3,155	1,275	168%
	O	240	341	101	142%		O	130	154	24	118%		O	1,470	2,479	1,009	169%
	B	160	152	-8	95%		B	100	120	20	120%		B	980	2,012	1,032	205%
	AB	70	88	18	126%		AB	50	62	12	124%		AB	570	1,240	670	218%
	合計	710	890	180	125%		合計	450	528	78	117%		合計	4,900	8,886	3,986	181%
	A	220	207	-13	94%		A	340	448	108	132%		A	1,000	1,243	243	124%
	O	220	226	6	103%		O	260	352	92	135%		O	780	901	121	116%
	B	160	148	-12	93%		B	220	272	52	124%		B	550	951	401	173%
	AB	60	75	15	125%		AB	100	95	-5	95%		AB	250	384	134	154%
	合計	660	656	-4	99%		合計	920	1,167	247	127%		合計	2,580	3,479	899	135%
岩手	A	440	500	60	114%	長野	A	298	422	124	142%	奈良	A	270	290	20	107%
	O	400	699	299	175%		O	228	327	99	143%		O	205	278	73	136%
	B	240	258	18	108%		B	154	226	72	147%		B	140	173	33	124%
	AB	120	178	58	148%		AB	80	88	8	110%		AB	75	68	-7	91%
	合計	1,200	1,635	435	136%		合計	760	1,063	303	140%		合計	690	809	119	117%
	A	200	311	111	156%		A	740	1,562	822	211%		A	210	349	139	166%
	O	200	306	106	153%		O	500	811	311	162%		O	190	257	67	135%
	B	130	130	0	100%		B	390	806	416	207%		B	130	218	88	168%
	AB	80	104	24	130%		AB	170	363	193	214%		AB	70	144	74	206%
	合計	610	851	241	140%		合計	1,800	3,542	1,742	197%		合計	600	968	368	161%
宮城	A	170	167	-3	98%	愛知	A	1,229	2,773	1,544	226%	和歌山	A	4,160	6,407	2,247	154%
	O	140	150	10	107%		O	998	1,772	774	178%		O	3,275	4,898	1,623	150%
	B	100	101	1	101%		B	687	1,330	643	194%		B	2,245	4,190	1,945	187%
	AB	50	57	7	114%		AB	321	480	159	150%		AB	1,200	2,301	1,101	192%
	合計	460	475	15	103%		合計	3,235	6,355	3,120	196%		ブロック計	10,880	17,796	6,916	164%
	A	440	523	83	119%		A	260	294	34	113%		A	977	1,092	115	112%
	O	330	468	138	142%		O	210	264	54	126%		O	710	832	122	117%
	B	250	472	222	189%		B	135	206	71	153%		B	473	1,987	1,514	420%
	AB	120	248	128	207%		AB	65	100	35	154%		AB	240	824	584	343%
	合計	1,140	1,711	571	150%		合計	670	864	194	129%		合計	2,400	4,735	2,335	197%
福島	A	1,710	2,017	307	118%	三重	A	3,490	6,386	2,896	183%	佐賀	A	130	174	44	134%
	O	1,530	2,190	660	143%		O	2,692	4,172	1,480	155%		O	100	132	32	132%
	B	1,040	1,261	221	121%		B	1,955	3,335	1,380	171%		B	70	120	50	171%
	AB	500	750	250	150%		AB	918	1,378	460	150%		AB	50	74	24	148%
	ブロック計	4,780	6,218	1,438	130%		ブロック計	9,055	15,271	6,216	169%		合計	350	500	150	143%
	A	420	489	69	116%		A	140	226	86	161%		A	260	324	64	125%
	O	380	440	60	116%		O										

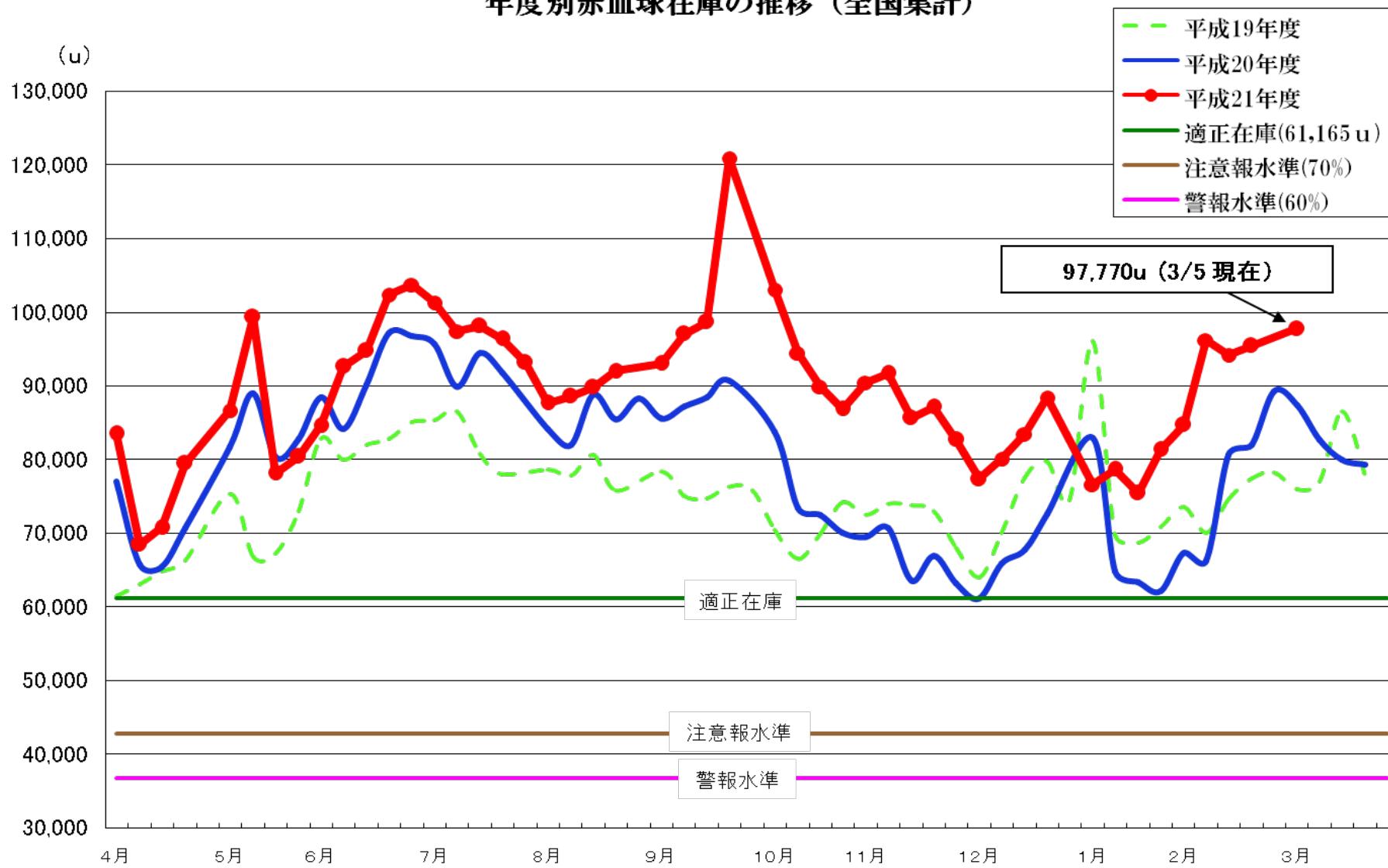
全国の赤血球の在庫状況(平成21年度)

2010/3/5 金	RCCLR+照射RCCLR (換算数)					過不足率	上段 : RCCLR1					上段 : IR-RCCLR1					
ブロック名	上段 : 適正在庫						中段 : 実在庫 下段 : 過不足数・対過不足率					中段 : RCCLR2					
	A	O	B	A B	計		A	O	B	A B	計	A	O	B	A B	計	
北海道ブロック 4,500	1,570 107%	1,370 106%	1,010 138%	550 151%	4,500 * *	119%	19 93	26 111	6 79	8 54	59 337	200 639	188 508	97 564	61 326	546 2,037	
宮城ブロック 4,780	1,710 118%	1,530 143%	1,040 121%	500 150%	4,780 * *	130%	1 28	2 13	4 10	2 2	9 53	240 860	250 956	167 535	98 323	755 2,674	
東京ブロック 18,810	6,890 186%	5,770 148%	4,010 158%	2,140 169%	18,810 * *	166%	207 1,903	200 1,288	146 925	103 526	656 4,642	831 3,976	588 2,580	478 1,936	257 1,101	2,154 9,593	
愛知ブロック 9,055	3,490 183%	2,692 155%	1,955 171%	918 150%	9,055 * *	169%	24 494	24 445	17 249	15 117	80 1,305	400 2,487	224 1,517	244 1,288	101 514	969 5,806	
大阪ブロック 10,880	4,160 154%	3,275 150%	2,245 187%	1,200 192%	10,880 * *	164%	27 394	26 335	30 218	15 224	98 1,171	236 2,678	176 2,013	156 1,784	90 874	658 7,349	
岡山ブロック 5,900	2,299 171%	1,720 158%	1,220 192%	661 166%	5,900 * *	171%	2 126	3 91	2 58	3 36	10 311	137 1,775	117 1,204	132 1,047	78 472	464 4,498	
福岡ブロック 7,240	2,877 126%	2,162 131%	1,440 251%	761 222%	7,240 * *	162%	4 120	5 138	5 115	1 66	15 439	58 1,660	61 1,246	37 1,671	19 769	175 5,346	
合計 61,165	22,996 160%	18,519 145%	12,920 174%	6,730 173%	61,165 * *	160%	284 3,158	286 2,421	210 1,654	147 1,025	927 8,258	2,102 14,075	1,604 10,024	1,311 8,825	704 4,379	5,721 37,303	
	13,856 160%	8,261 145%	9,559 174%	4,929 173%	36,605 * *		6,600	5,128	3,518	2,197	17,443	30,252	21,652	18,961	9,462	80,327	



※全血製剤の供給は少量のため、グラフ上に表示されません。

年度別赤血球在庫の推移（全国集計）



平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

北海道赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	ティーンズドナー献血キャンペーン	全道の中学生から20代の若年層	協力者数 2,000名以上
2	サタデー・テーリング	小学生、特に高学年に献血の重要性を啓蒙する	時期 4月～9月まで 参加者 2,500名以上
3	サマー献血キャンペーン	10～20代を中心とした若者	全道 800名 以上
4	施設見学や総合的な学習等の受入	学年(小・中・高・短大・大学) 幅広く啓発を図る	参加者 300名 以上
5	血小板成分献血協力団体への研修会	大学サークルを主として団体献血(複数人数献血者)の継続的な協力体制を講察する	協力者数 3,000名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血事業所の開拓・確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓蒙活動	現在、事業所が減少している状況ではあるが 目標 10～15社
2	待機型企業・団体の確保	規模縮小の為、献血協力できなくなった企業・団体。駐車スペース、他の状況で献血できない事業所。年一回実施事業所への要請。	動員協力団体 100社
3	事業所・団体等の研修会実施	献血の重要性と400mL・成分献血の啓発、強化	道内各センター 100社
4	成分献血協力団体・企業の啓発	待機型企業・団体および少人数の企業・団体	現状 30社 目標 40社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキ・電話要請の強化	前回採血から期間が開いている献血者	400mL・血小板成分献血者 応諾者数(実協力者数) 3,000名以上
2	複数回献血クラブの運営	複数回献血者会員へメールによる啓蒙	年度会員 3,000名
3	献血処遇品の変更	献血者のニーズに合わせた処遇・一年間で2回の品物変更	新たに1,500名以上の複数回献血者を確保
4	献血フォーラムの実施	複数回献血者会員への啓蒙	参加動員 250名

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	成分献血(血小板)推進キャンペーンの実施	複数回献血者・団体・学生等へ全道統一した期間限定キャンペーンを実施	短期間での実施予定 目標等については、血小板および血漿製剤の需要にて判断
2	「また来て献血」カード配布	全血ルームにて独自の複数回献血者確保を目的に展開	参加協力数 延べ8,000名

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

青森県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがき・メールによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	献血者数17,000人以上
2	セミナー開催	短大・大学生	6回開催 参加100人以上
3	成人式会場においてチラシを配布し、新規及び若年層の確保	新成人	会場においてチラシの配布1,500枚
4	学校献血において学生ボランティアの呼びかけ	大学生	1,300人以上の献血者確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血事業所・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	20社目標
2	休眠協力事業所の確保	過去の献血実施事業所の掘り起こし	10社目標

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者)1,100人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者)3,000人以上
3	チラシによる複数回クラブ会員募集	ルーム・バスにきた方	会員総数4,600人以上

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	八戸献血ルームのフルオープン	成分献血者	800人以上の成分献血者増員(50日×16人)
2	平日の成分献血者確保(成分献血デーの実施)	成分献血者	平日の成分献血者を1ルーム、1人/日以上を確保し、3ルームで1,000人アップを目標

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

岩手県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校生への普及啓発	高校生(主に高校3年生)	協力者数2,900人以上
2	大学・専門学校での献血実施	短大・大学・専門学校	協力者数4,200人以上
3	親と子の血液センター見学会	小学生と保護者	参加者数350人以上
4	セミナー開催	高校生・短大生・大学生・専門学校生	2回以上開催、参加者数200人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	35社新規企業開拓
2	年2回以上の協力依頼	年1回の献血団体	10会場

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回・前々回の採血場所で協力いただいた	応諾者数(実協力者数)4,000人以上
3	封書による献血依頼	全血・成分献血登録者	応諾者数(実協力者数)2,500人以上
4	メールによる情報配信	複数回献血クラブ会員	複数回献血クラブ会員1,700人以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

宮城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血のお礼状送付	16～29歳の献血初回者	献血再来者数200人以上
2	はがきによる400mL献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	献血再来者数150人以上
3	献血実績の高い大学、専門学校への配車を増やす	大学生、専門学校生	2回開催 延献血者数100人
4	新規献血者紹介強化(4～6月)	大学生、専門学校延べ25校	25回開催 献血者数250人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血実施会場周辺の企業・団体	100社新規登録
2	献血ルームで協力可能な近隣企業の確保	献血ルーム近隣企業	30社新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	献血応諾率10%以上
2	はがきによる献血要請	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)7,000人以上
3	封書による複数回会員登録依頼	献血依頼対象者	会員登録者数 8,000人以上
4	献血会場での複数回献血クラブ会員登録強化	全献血者	会員登録者数 8,000人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	休日の街頭献血を増やす	宮城県全体の献血者	配車割合33.5%
2	休日に実施可能な事業所の開拓	県内各企業	3事業所
3	はがきによる会員登録の案内	献血依頼対象者	総会員登録者数 8,000人以上
4	メールによる成分献血予約の案内	複数回献血クラブ会員	成分献血予約 1,200人以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

秋田県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	献血講話	高校や大学	5校
	ハガキによる献血依頼	16才から29才を対象に400献血成分献血の依頼	2万枚
	キャンペーンの実施	16才から29才を対象のキャンペーン	6回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	新規献血協力施設企業・団体の確保	献血未実施企業	新規企業団体36社
	成分献血協力団体の確保	既献血企業に対し協力依頼	

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	はがきでの献血依頼	年間一回の献血協力者に対し依頼	
	オリジナルパンフレットの作成	情報誌「ピエノ」の作成	1万5千部
	メールによる献血依頼		

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	献血ルームの午前中の献血者の確保	キャンペーンを実施	午前中15人の確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

山形県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	出前講座の実施	小・中・高・大・各学校生	12回
2	高校献血の実施	県内の高校生	50校
3	施設見学	小学生・高校生	各1回(宮城センター見学)
4	東北ブロック学生キャンペーン実施	若年層一般	3回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	広報紙(市・町報紙)での新規協力団体募集	小規模(100人以下)の事業所	新規団体5団体
2	ライオンズクラブ内会員の新規事業所勧誘	小規模(100人以下)の事業所	新規団体5団体
3	訪問による新規団体勧誘	献血未実施事業所	新規団体5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血ポイント制の実施	400・成分献血者	複数回達成者30%
2	複数回献血啓発チラシの作成	400・成分献血者	対象献血者全員配布

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	行政窓口担当者の研修	市町村担当者	全管内実施
2	渉外活動の強化	献血実施団体及び近隣事業所	全献血実施場所
3	街頭・住民献血への葉書依頼	400献血対象者	18000通／年
4	街頭・住民献血へのメール依頼	400献血対象者	18000通／年

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

福島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	青少年献血ふれあい事業開催	小、中、高校生	年3回以上実施100人以上
2	若年者献血セミナー開催	高校、大学、専門学校生	5回開催参加者300以上
3	学生ボランティアと連携したイベント献血の実施(サマー献血、クリスマス献血等)	高校、大学、専門学校生	8月・12月に実施、1稼働50人以上
4	大学献血への増車	大学生	毎月1回の配車、1稼働50人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血協力事業所の見直しを効率化を図る	20社以上
2	休眠献血団体・企業への働きかけ	現在休眠献血事業所の過去における実績を検討し、今後の献血協力を依頼する	50社以上
3	優良企業・団体の年複数回の献血実施	優良事業所の献血実施時期を検討し、年間における運行回数の見直しを図る	20社以上
4	優良企業・団体への配車台数の増車	優良事業所の献血実績を検討し、献血実施時における運行台数の見直しを図る	5社以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる協力要請	複数回献血クラブ会員	応諾数1000人以上
2	ハガキ・電話による要請	前回400mL献血経験者	応諾数1000人以上
3	会員募集用リーフレットの作成	400mL献血者と成分献血者	60000枚配布予定

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	登録成分要請ダイレクトMの発送	成分献血未経験者で可能者	固定施設で500人確保する
2	複数回成分献血者の確保(成分献血キャンペーン等の実施)	新規を含む成分献血者	固定施設で年間500人を定期化を依頼する
3	原料血漿確保のための成分献血確保	55歳以上の成分献血経験者	固定施設で200以上とする
4	ルームの献血者確保(ルーム限定イベント等に実施)	新規を含む献血者	1日平均50名を確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

茨城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	セミナー等の開催	高校・短大・大学生	3回～5回実施
2	若年層キャンペーンの実施	高校・短大・大学生	2回～3回実施 参加者500名 献血者150名
3	夏休み親子教室の実施	小学生	3回～5回実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規事業所の開拓	1回/30名以上の協力を得られる新規事業所	10社～20社
2	休眠状態の事業所の開拓	実施しなくなった事業所の見直し	10社～20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブの登録者	応諾者数 5,000名
2	ハガキによる献血依頼	献血可能者	応諾率 20%
3	企業及び団体の年間実施回数の増加	年1回～2回実施の事業所及び団体	5～10ヶ所

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	次回の予約推進	各献血ルームの献血者	予約者 1,000名を確保する。
2	電話及びハガキによる献血依頼の実施	成分献血者	応諾者数 1,500名を確保する。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

栃木県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高等学校献血の実施	16~18歳の高校生	協力者8,000人以上
2	大学・短大・専門学校等献血の実施	18~22歳の学生	協力者8,000人以上
3	青少年等献血ふれあい事業・若年者献血セミナーの開催	小中高生から30代未満の若年者	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および採血会場周辺企業	10社
2	休眠団体への働きかけ	事業規模縮小等により献血実施できなかった企業・団体	20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人
2	はがきによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキ・メールによる献血依頼	400ml献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含む。
2	400ml献血推進キャンペーン	400ml献血可能者	全血400ml献血比率76.0%
3	高等学校献血における400ml推進	400ml献血可能者	高等学校献血時の400ml献血率今年度比3%増

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

群馬県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	夏休み親子体験教室	小学生・中学生	50名
2	サッカーJ2ザスパ草津・三洋電機ワイルドナイツと連携し献血PR活動の実施	献血可能者	500名以上
3	献血セミナーの開催	専門学校・短大・大学生・小・中学生	2回開催 参加者1000人
4	学生献血ボランティアによるイベントの実施(クリスマス献血・サマー献血等)	18歳から29歳の若者	500名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	目標50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)12000人以上
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)2000人以上
3	リラクゼーションの実施(健康相談)	メール会員	2月22日～3月19日の平日で実施(平均50人以上)

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

埼玉県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血出前講座	小学生、中学生、高校生、その他学生	参加者3,000人
2	親子ふれあい献血キャンペーン	幼児、児童と父親、母親	子供達の参加400人
3	献血フォーラム	若年層	参加者500人
4	入学おめでとう献血啓発カード	新高校1年生	高校1年生67,000人
5	卒業献血キャンペーン	高校3年生	参加者500人
6	クリスマス献血キャンペーン	若年層	3会場で500名の献血協力
7	県・市町村・血液センター3者による高校訪問	献血未実施高校	高校生献血14,000人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	県・市町村・血液センター3者による新規献血協力団体の開拓	献血未実施企業及び団体	50団体
2	献血ルームへの献血協力団体の開拓	献血ルーム周辺の企業および団体(移動採血車やオープン採血ができない企業等)	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	会員数30,000人
2	ハガキによる献血依頼	献血要請依頼可能者 (前回採血から一定期間未献血者)	応諾者20,000人以上
3	県・市町村・血液センター3者の企業訪問	年1回実施の企業および団体	10団体

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	400mL献血者増加のための推進用資材の作成	400mL献血可能者に配布	①400mL献血の基準を満たしている方の98%以上から400mL献血をいただく。 ②400mL献血比率を80%とする。
2	葉書等にて60歳～64歳の間に献血未実施の方に、400mL献血協力を依頼し、69歳までの献血再来推進	60歳から64歳の間に協力がない方	1000名の400mL献血者増

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

千葉県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	セミナー開催	高等学校	3回開催 参加2,000人
	小学生を対象とした献血啓発イベント等開催	小学生等(保護者を含む)	年1回開催

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血協力企業、会場周辺企業など	新規協力企業・団体の確保により238社新規登録
2	臨時献血要請可能な企業の確保	通常献血に加え臨時に献血依頼可能な企業	献血要請可能な企業等20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数 延べ 900人
2	はがきによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数 延べ 25,000人
3	メールによる情報配信	複数回献血クラブ会員	年6回以上
4	新規複数回献血クラブ会員募集 キャンペーン	献血者	新規会員数 2,000人

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	成分献血者(緊急時を中心に)	1ヶ月平均120人を目標に年間1,400人を確保する。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

東京都 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	ラクロス献血協力者に対する複数回依頼	短大・大学生	700人対象
2	大学・短大献血の増回・増班	大学・短期大学生	大学献血の稼動日数を延べ15日増加
3	新採血基準を見据えた高校献血の実施	高校	献血団体として5団体増加
4	グループ献血、ペア献血	16歳以上の学生	約25,000人
5	はがきによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者数20,000人以上
6	環境整備及びイベントの実施	16~29歳の献血者	環境整備後の固定施設を中心とし、各施設等において協力対象者を3%増加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体の確保(ライオンズクラブとの連携等)	献血未実施団体	50団体
2	新規協力企業の確保	献血会場周辺の新規協力企業	50団体
3	掘起し・増回企業・団体の確保(ライオンズクラブとの連携等)	献血中断・年1回実施の企業・団体	50団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	400ml献血サポーター募集	原則通年・400ml献血した献血者の再来を勧奨する。	400ml採血者の60%を目標
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ(携帯メールクラブ)会員	応諾者数(実協力者数)40,000人以上
3	はがきによる献血依頼(全血・成分)	前回献血ルームでの献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)30,000人以上
4	はがきによる献血依頼(渉外支援)	前回同移動採血会場に来所した献血者への依頼	応諾者数(実協力者数)42,000人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	成分献血予約推進	成分献血者	成分献血の35%以上を予約で確保する。(約65,000人) 成分献血予約のうちメール予約で45%、約30,000人確保を目標とする

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

神奈川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	17才からの400mL献血キャンペーン	県内高等学校の17才以上の男子生徒を中心に行なう献血を実施する。	17才からの400mL献血の実施について国会承認が降り次第、17才の400mL献血推進キャンペーンを実施することで、若年層の献血協力率が向上する
2	中・高生の献血協力率の向上を図るため、血液センターの事業や業務について職場体験をする。	県を通じ、県下の中学校及び高等学校に募集を呼びか実施する。	原則として、中高生が参加しやすい夏休み期間に1日10組で平日に10回実施する
3	当センターではJリーグ横浜F・マリノスの支援をいただき、ホームタウンの横浜市内で行われる献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置し、球団旗で装飾をしたり、献血協力者には選手のサイン色紙や各種グッズを記念品として提供いただく等、球団と共同してPR活動を実施する。	県民はもとより、横浜F・マリのファンやサポーターの中でも特に若年層を対象とする。	横浜F・マリノスのエンブレムで装飾した天幕を、マリノスのホームタウンである横浜市内の街頭献血会場に設置することにより、若年献血者の確保をはかる。
4	横浜駅東口献血ルームでは、Jリーグ横浜F・マリノスに支援をいただき、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	横浜F・マリノスのチームカラーで装飾し、若年層のサポーターやファンの献血者の確保をはかる。
5	Jリーグ横浜F・マリノスの公式戦やファン感謝デー等に移動採血車を配車し、球団エンブレムを配した天幕を球団旗等装飾するほか、マリノスのマスコットキャラクターとけんけつちゃんによる広報応援を行い、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	横浜F・マリノスのホームでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。(平成21年度実績1回)
6	当センターではJリーグ川崎フロンターレに支援をいただき、ホームタウンの川崎市内で行われる献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置し、球団旗で装飾をしたり、献血協力者には選手のプロマイド等各種グッズを記念品として提供いただく等、球団と共同してPR活動を実施する。	県民はもとより、川崎フロンターレのファンやサポーターの中でも特に若年層を対象とする。	川崎フロンターレのエンブレムで装飾した天幕をフロンターレのホームタウンである川崎市内の献血会場に設置することにより、若年献血者の確保をはかる。

7	かわさき献血ルームでは、Jリーグ川崎フロンターレに支援をいただき、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポートーの献血への協力を募る。	同上	川崎フロンターレのチームカラーで装飾し、若年層のサポートやファンの献血者の確保をはかる。
8	Jリーグ川崎フロンターレの公式戦やファン感謝デー等に移動採血車を配車し、球団エンブレムを配した天幕を球団旗等で装飾するほか、フロンターレのマスコットキャラクターとけんけつちゃんによる広報応援を行い、ファンやサポートーの献血への協力を募る。	同上	川崎フロンターレのホームでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。
9	当センターではJリーグ湘南ベルマーレに支援をいただき、ホームタウンの平塚市を中心に湘南地区で行われる献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置し、球団旗で装飾をしたり、献血協力者には選手のサイン色紙や各種グッズを記念品として提供いただく等、球団と共同してPR活動を実施する。	県民はもとより、湘南ベルマーレのファンやサポートーの中でも特に若年層を対象とする。	湘南ベルマーレのエンブレムで装飾した天幕をベルマーレのホームタウンである湘南地域の献血会場に設置することにより、若年献血者の確保をはかる。
10	藤沢献血ルームでは、Jリーグ湘南ベルマーレの支援をいただき、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポートーの献血への協力を募る。	同上	湘南ベルマーレのチームカラーで装飾し、若年層のサポートやファンの献血者の確保をはかる。
11	Jリーグ湘南ベルマーレの公式戦やファン感謝デー等に移動採血車を配車し、球団エンブレムを配した天幕を球団旗等で装飾するほか、ベルマーレのマスコットキャラクターとけんけつちゃんによる広報応援を行い、ファンやサポートーの献血への協力を募る。	同上	湘南ベルマーレのホームでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。

12	当センターではプロ野球横浜ベイスターズに支援をいただき、ホームタウンの横浜関内駅周辺や桜木町駅周辺で行われる献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置し、球団旗で装飾をしたり、献血協力者には選手のサイン色紙や公式試合球等のグッズを記念品として提供いただく等、球団と共にPR活動を実施する。	県民はもとより、横浜ベイスターズのファンやサポーターの中でも特に若年層を対象とする。	横浜ベイスターズのエンブレムで装飾した天幕を、ホームタウンである横浜関内駅周辺の献血会場に設置することにより、若年層の献血者の確保をはかる。(平成21年度配車実績16回)
13	横浜駅西口献血ルームでは、横浜ベイスターズに支援をいただき、ルーム内に選手のサイン入りユニホームやワールドベースボールクラシックに日本代表として参加した村田選手や内川選手のサイン入り代表ユニホームを展示したり、ルームの入口には村田、内川両選手の等身大ポスター やマスコットキャラクターのステッカー等で装飾しファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	横浜ベイスターズのチームカラーで装飾し、若年層のサポーター やファンの献血者の確保をはかる。
14	プロ野球横浜ベイスターズの公式戦やファン感謝デー等に移動採血車を配車し、球団エンブレムを配した天幕を球団旗等で装飾するほか、献血協力者には選手のサイン色紙や公式試合球等ベイスターズグッズを記念品とし提供いただき配布する。また、ベイスターズのマスコットキャラクター やチアガール「ディアナ」とけんけつちゃんによる広報応援を行い、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	ホームでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。(平成21年度配車実績1回、2台、400mL献血者132名)
15	将来の献血協力者である小学生と保護者の方々に血液についての知識や献血について理解を深めるための「小学生夏休み親子献血教室」を開催する。	県を通じ、県下の小学校に募集を呼びかけるほか、PTA献血の際に保護者に参加を呼び掛ける。	夏休み期間1回10名で40回400名(平成21年度参加実績32回216名)
16	「献血の絵ポスター展」を開催するため、県下の小・中学校に作品を制作を依頼すると伴に、優秀作品を掲載したカレンダーを作成し、作品を出してくれた児童・生徒や街頭や企業で献血に協力いただいた方へ配布する。	ポスター展の作品募集は県を通じて、県下の小学生・中学校に呼び掛ける。	県内の小・中学校200校からの応募。(平成20年度参加実績169校、平成21年度参加実績195校)

17	毎週火曜日14時からの当センターが提供している、地元FM放送局「FMヨコハマ」の番組を活用し、患者様からの「ありがとう」のメッセージの放送や献血に関する情報等を放送する。	一般県民・高校生・大学生のリスナー	若年層の視聴率が関東近県では一番のFMヨコハマを活用し、血液が不足したときなどに献血への協力を掛け、血液の安定供給を図る。
18	大学献血に協力をいただいている県内の各大学の学生ボランティアを神奈川の観光名所である「横浜みなとみらい」地区のイベント会場に集め、ボランティア活動としての献血を県民にアピールする「第7回ボランティアフェスティバル(ボラフェスタ)」を開催する。	大学生(ボランティアクラブ・サークル)・社会貢献団体(ライオンズクラブ等)・プロ野球、サッカーチーム	11月開催予定、参加大学校18校(平成21年度実績14大学20サークルが参加)
19	第7回ボランティアフェスティバル(ボラフェスタ)に参加してくれた大学生を核とし、自校での献血実施時には学内での広報応援をお願いし、献血未実施大学では大学内献血の実施に向けて協力を依頼する。	献血実施大学及び未実施大学	大学生10,000人(平成21年度大学献血実績:大学32大学174回、6,655人)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的な対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	都市圏では1つの集合ビルに、テナント企業が数社入っているので、集合ビルでの献血を実施する。	集合ビルテナント企業	新規法人100社
2	現在献血に協力をいただいている企業や団体等からのグループ企業等新規企業の紹介してもらう。	グループ企業	20社
3	県内には工業団地が76団地あるが、献血に協力をいただけていない工業団地もある。そこで、工業団地の組合を通じ、課名企業の方々に集まっていただき献血への協力を呼び掛けるための推進会議を開催する。	各工業団地の組合課名企業	2回程度
4	大規模開発地区への移転予定企業の開拓	横浜みなと未来地区へ移転予定の日産、日立、ゼロックスなどの企業	10社
5	「献血協力団体一覧」を年度毎に作成し、協力をいただいた企業や団体に配布する。	新規献血協力企業及び団体(官公庁を含む)に配布し、グループ企業の紹介をいただく。	年1回発行

6	ライオンズクラブやロータリークラブ等の献血推進団体の会合に出席し、地域に根付いた献血推進活動への協力を依頼する。	ライオンズクラブ、ロータリークラブ、ソロプチミニスト協会等。	20団体(平成21年度実績12回)
7	新規企業の複数回献血へのアプローチ	新規献血協力企業・団体の参加を求める	企業・団体総数を880社にする。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	神奈川県内で献血登録をしている方への献血メールクラブ会員募集葉書の送付	メールクラブ未登録の献血登録者	70,000人の依頼に対し年間会員登録予定7,000人以上
2	新規に登録をいただいた全血登録者への複数回献血協力依頼ハガキの送付	新規全血(400mL)登録者	年間応諾予定 3,000人以上
3	血液製剤の安定確保のために、献血登録者へ街頭献血でのご協力をお願いするハガキの送付	依頼期間内に献血実施予定の街頭献血会場を採血希望場所に指定(登録)している方で、全血献血(400mL)登録者	42,000人の依頼に対し年間応諾予定 5,000人以上
4	血液製剤の安定確保のために、献血登録者へ企業献血でのご協力をお願いするハガキの送付	献血実施予定の企業・団体に所属している方で(採血希望場所に指定している方)、全血献血(400mL)登録者	40,000人の依頼に対し年間応諾予定 16,000人以上
5	突発的な血液不足時に電話による協力依頼	血小板・全血献血(400mL)登録者	4,000人の依頼に対し年間応諾予定 2,000人以上
6	献血メールクラブ会員への献血要請(主に緊急確保が必要な場合)	血小板・全血献血(400mL)登録者のメールクラブ員	20,000人の依頼に対し年間応諾予定 2,000人以上
7	複数回献血協力者確保用ポイントカードの作成(ドナーズカード)	全ての献血登録者	年間80,000人を目指
8	平日の成分献血者確保、及び複数回献血協力者確保用ポイントカードの作成(ウィークデーカード)	成分献血者	平日の平均受入人数を5人程度の増加
9	複数回献血協力者確保用献血再来カードの発行	全血献血を主体としている、神奈川県運転免許試験場内設置の献血ルームでの400mL献血者を成分献血主体の神奈川県内の献血ルームへの誘導	年間献血目標の23,000人に依頼

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	サッカー教室(横浜F・マリノス、川崎フロンターレ、湘南ベルマーレの協力で児童が練習中に保護者対象の献血実施)	幼児・小学生と保護者	各会場1教室10人程度で1回につき幼児1教室、小学生6教室の午前・午後各1回、計500人
2	新規献血メールクラブ会員の募集	献血協力者全員	随時対応
3	成分献血キャンペーン ハガキ依頼(血小板及び原料血漿の確保)	成分献血登録者	年間 80,000人の依頼 20,000人の確保
4	年末年始対策ハガキ依頼(12/23～1/10)	全血及び成分献血登録者	年間 26,000人の依頼 4,000人の確保
5	新規献血者確保キャンペーン	全血協力者(年2回)	1回2,000人で年2回けい4,000人
6	ゴールデンウィーク対策葉書依頼(4/29～5/6)	全血協力者	10,000人の依頼 2,000人の確保
7	血小板型別不足による平日献血依頼	成分献血登録者	随時対応
8	神奈川県では、県とタイアップし、年2回春と秋に「かながわ献血キャンペーン」を実施	献血協力者全員	年2回 (春:4/1～5/31、秋:10/15～11/30)
9	県内には自衛隊の基地等関連施設が17箇所あり、血液製剤の安定確保には欠かせない協力団体であるため、各自衛隊の献血への更なる理解と協力を得るため、自衛隊献血連絡会議を開催する。	県内17自衛隊関連施設の献血担当者及びその上司。	年1回
10	血液事業の現状と配車計画についての市町村の理解と協力を維持するため、保健福祉事務所及び市町村血液事業担当者会議を開催する。	保健福祉事務所及び市町村血液事業担当者及びその上司。	年1回
11	神奈川オリジナルけんけつちゃん着ぐるみ人形による献血ルーム等での広報	一般県民	随時対応

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

新潟県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校での献血の実施	高校生	8校
2	献血普及講演会の実施	大学生、専門学校生、高校生	12校
3	献血ルーム見学会の実施	大学生、専門学校生、高校生	10校
4	学生ボランティアの献血推進活動への参加	大学生、専門学校生、高校生	5校
5	若年層向けリーフレットの作成	若年層	60,000部

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所・団体の開拓	県内の事業所・団体	10社
2	年2回以上実施する協力事業所の確保	県内の事業所・団体	10社
3	新聞への献血実施お礼広告の掲載	献血協力事業所・団体	6月に掲載予定

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員への献血要請	複数回献血クラブ会員	会員数500名以上
2	はがきによる献血要請	ルームで6ヶ月以上の休眠献血者	応諾者1,500名以上
3	定例献血会場での複数回協力者確保	会場周辺地域の献血者	複数回協力者500名以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血PRイベントの実施	県民を対象に県内FMラジオ局の公開録音を年2回実施	献血の普及啓発、新規献血者の確保
2	ラジオとタイアップした献血推進キャンペーんの実施	県内FMラジオ局	献血の普及啓発、新規献血者の確保
3	献血ルームにおける献血者確保キャンペーんの実施	県内3ヶ所の献血ルーム	協力者の底上げ、血液不足時の献血者確保
4	定期的(週1回)な献血情報の提供	県内ラジオ局で週1回60秒程度の献血情報を放送する	血液在庫状況の周知、献血者の確保
5	協力団体への献血要請	協力団体に献血協力カード配布	応諾者300名以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

富山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	年間献血協力者数15,000人
	献血セミナーの開催	短大生、専門学校生、大学生	年間4回実施(200名程参加)
	若年層への献血啓発	小学生、中学生等	年間500名程度参加
	学生献血ボランティアと連携したイベントの実施(サマー献血、クリスマス献血)	18～22歳の若者	300名の献血協力者を確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	新規献血協力団体、休眠団体の拡大	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規団体を10社300名の献血者を確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	複数回献血クラブ会員の募集	400mL献血、血小板献血可能者	会員数を1,200人
	年間2回献血協力事業所の拡大	年1回の献血協力事業所	10団体増加

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	血小板献血予約者の確保	血小板献血可能者	3人/日を目標に年間1,000人を確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

石川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血ポスターの募集	中学生	30校300点
2	献血セミナー開催	大学生	70人
3	学園祭での普及啓発	大学・短大・専門学校	5校
4	夏休みセンター見学会	小学生・保護者	4回開催

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体の確保	未実施企業及び団体	10から15社を確保
2	血液不足時の協力企業の確保	要請が可能な企業	10社確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	キャンペーンによる会員募集	未登録の献血者	500人確保
2	メールによる献血要請	複数回クラブ会員	応諾者数100人以上
3	はがきによる献血要請	年1回の献血者	応諾者数500人以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

福井県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	短大・大学:学内献血の増加 いつしょに献血キャンペーン	学生、教員	短大、専門学校年間1回以上 大学年間2回～4回
2	学生献血推進連盟との連携強化	学生	キャンペーン実施(年間5回)
3	血液センター見学	小学生以上、関係者	年間10回程度
4	若年層献血推進用パンフ、ポスターの作成	小中学生、関係者	ポスター:県内全小中学校へ配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体の開拓	献血未実施、休眠中および会場周辺企業団体	5社(団体)
2	緊急要請可能企業、団体の開拓	血液センター周辺企業団体	5社(団体)
3	ライオンズC、ロータリーCとの連携強化	県内全LC(28) RC:新規開拓	LC:28団体 RC:3団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	キャンペーン実施(新規課員募集含む)	クラブ会員、献血者	イベント企画(年間2回)、新規課員500人
2	メール・ハガキ依頼の活用	クラブ会員、献血者	メール:年間20回・1,500人へ依頼 ハガキ:年間応諾率30%(21年実績25.8%)
3	初回献血者:サンクスキャンペーン (お礼状や血液の現状等のお知らせ)	年間初回献血者(約3,000人)	初回献血者の50%を複数回協力者へ
4	400mL献血リピートキャンペーン	400mL献血者	年2回以上:400mL献血者の40%

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	母体限定キャンペーン実施	献血者	1日平均35人以上
2	午前中のPC確保強化	血小板成分献血可能者	採血依頼数の完全確保(午前中に60%確保)
3	市町村職員送迎:血小板成分献血	市町村職員	年間30回(1回当り5～6人)

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

山梨県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校献血の全校実施	400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	短大・大学献血の実施	400mL献血可能者	協力者数1,200人以上
3	セミナー開催	高校・短大・大学生	3回開催 参加200人
4	若年献血者用パンフレットの作成	県内全中学校の卒業式で10,000人に配付	協力者数1,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺企業	15社増加
2	年1回の献血団体を年2回実施	年1回実施企業・団体	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	実協力者数300人以上
2	はがきによる献血依頼	一定期間未献血者及び前回献血者	実協力者数2,500人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血ルーム案内チラシの作成	甲府市内の移動での献血者並びに各大学・短大において10,000人に配付	献血ルームの献血者300名増
2	はがきによる依頼	一定期間未献血者	献血ルームの献血者500名増
3	新規献血協力団体の確保	献血ルーム周辺企業への献血協力依頼	献血ルームの献血者100名増
4	献血ルームの新規献血者確保 (新規来場者へ記念品配付)	新規来場者	平日の平均受入数を33人以上にする。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

長野県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血キャンペーンの実施	若年層を狙った街頭献血の実施	学生ボランティアによる街頭啓発活動10・20代構成比を40%
2	学生の送迎	高校生、短大生、専門学校、大学	200名の送迎
3	学校前での啓発物配布	高校生、短大生、専門学校、大学	固定施設の学生献血率を10%にする
4	友達紹介キャンペーン	高校生、短大生、専門学校、大学	キャンペーン中紹介による献血者を100名確保する。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力企業の確保	新規企業に訪問し献血の依頼を行う。	新規10社
2	休止企業の協力依頼	3年以上休止している企業を訪問し実施する。	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	複数回献血実協力者数2,000人以上
2	はがきによる献血依頼	過去の献血者から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)2,000 人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	固定施設献血者の増加	企業、短大、専門学校	送迎により500名の献血者確保
2	午前中の血小板献血者の確保	官公庁職員	200名の献血者確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

岐阜県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	中学生への献血思想の普及啓発	県下全中学校	200校
2	高等学校への献血思想の普及啓発	県下全高等学校	79校
3	大学・短大・専門学校への普及啓発献血実施	大学・短大・専門学校	各校献血者数50名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血協力者30名を望める企業・団体	数社
2	献血実施会場への送迎協力	献血実施会場周辺企業・団体	1稼動平均献血者増

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	年間献血回数が一回の400mL献血者	応諾者数(実協力者数) 1, 500人以上
2	事業所(企業・団体)	年間一回実施で大口協力事業所	数ヶ所

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	職専免	県・市町村職員	月二回の依頼
2	電話による依頼	該当者	必要人数
3	ハガキによる依頼	誕生月等 献血間隔に応じて	月 5, 000人
4	学生の献血者送迎	大学生・専門学校生	10校

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置(表内及び指示事項記入)

①若年層献血者確保対策

静岡県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新成人への献血PR紙配布	新成人	10市町の新成人全員
2	高校卒業者配布誌への献血PR掲載	高校3年生	県内全高等学校3年生
3	献血セミナー開催	JRC、高校生献血サポートー、学生ボランティア	単発開催15回、通年開催3団体 延べ1,000人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体・献血推進団体の確保	献血未実施企業、団体	30団体の献血実施、後援等を確保する。
2	休止献血団体、休止献血推進団体の再開	過去に献血実施実績のある企業、団体	30団体の献血実施、後援等を確保する。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	メールによる献血依頼配信人数 15,000名
2	はがきによる献血要請	献血登録者、依頼要請応諾者	はがき送付枚数 100,000枚 応諾率20%

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	依頼要請承諾者	はがき送付枚数 100,000枚 応諾率20%
2	成分献血から全血献血への変更依頼	血漿成分献血のみ可能な献血希望者	1,650人を全血献血に変更する

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

愛知県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	中部学生リーダー研修会の実施	短大・大学生	2回以上の研修会を実施 参加人数100人以上
2	学生献血連盟によるキャンペーン実施	18歳～22歳の若年者	年2回以上の実施 参加600名以上で若年層10代20代の献血構成比35%以上にする
3	高校・専門学校への出前授業を実施し、これからの血液事業や献血について説明を行う。	16歳～18歳の学生	年間5校

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体・企業の確保	献血未実施企業・団体	休眠団体、新規団体の献血実施50社
2	優良企業・団体の年複数回の献血実施	1稼働あたり90単位以上の企業・団体	15企業・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)1,200人以上
2	はがきによる献血依頼	成分献血・400mL献血可能者	応諾者数(実協力者数)17,000人以上
3	メール会員登録推進カード配布	全献血者	メール会員新規登録6,000人

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置(表内及び指示事項記入)

①若年層献血者確保対策

三重県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	セミナー開催	大学生・専門学校生・短大生・高校生	3回 120名
	大学・専門学校の学内献血実施回数の增加	大学生・専門学校生・短大生	7校 配車20回×45人 900名
	中部統一学生献血キャンペーン	18歳～29歳の若者	10・20代の献血者構成率32%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施の事業所	20団体新規登録
	休眠状態の事業所の開拓	5年以上献血に参加していない企業	20団体以上
	成分献血協力団体の拡大	全血献血協力団体及び少人数の企業・団体	10団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数500名以上
	企業への年間回数の増加	企業内職員	400ml献血間隔、年間採血量を考慮した献血日程
	葉書による献血依頼	前回献血から一定期間の未献血者	応諾者数1500人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	成分登録者の募集	条件に合致する献血者	100人/月
	電話による献血依頼(夜間)	成分献血協力依頼可能者	100人/月
	次回予約の推進	成分献血にご協力頂けた方	100人/月
	ウイークデー献血キャンペーン	3施設において平日に成分献血協力	225人/月

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

滋賀県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	DM・メールによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者数1,500人以上
2	ふれあい体験学習	小・中学生	3回開催 参加500人
3	学内献血とセミナー開催	短大・大学生	12回開催 参加840人
4	若年者街頭献血キャンペーン	18~29歳の若者	参加1,500人以上 期間中の10、20代献血者構成比50%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規・休眠中献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規等登録10社
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	母体・ルーム周辺の小規模企業・事業所	動員協力団体5社
3	献血協力団体等の確保	献血協力団体及び献血推進団体	協力団体5社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	5カ所
4	郵送によるメール会員募集	若年献血者	新規登録者200人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	近隣大学生への献血勧誘	母体の近隣大学生(立命・龍谷)	3人/日を目標に年間600人を確保する。
2	DM及び電話による献血依頼	母体・ルームの血小板成分献血者を含む全献血者	3人/日を目標に年間1,000人を確保する。
3	次回の予約推進	母体・ルームの血小板成分献血者	2人/日を目標に年間700人を確保する。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

京都府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血ルームでの献血セミナー開催	小学校高学年とその保護者	7月・8月 5回開催 参加100人以上
2	18歳からの献血体験キャンペーン	府内18歳以上の高校3年生、専門学校生	期間中の参加者数 100人以上
3	献血会場外での献血セミナー(献血検定)開催	①JRCトレセン参加の中・高生、②京都市ふれあいまつり来場の小・中学生、③成人式出席者	①参加150人以上、②参加200人×4日、③参加200人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血協力企業の確保	献血会場周辺企業に対する献血協力の推進	27社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	「ワンモア献血カード」キャンペーン	献血ルームでの400mL、成分献血者	400mL献血者3,500人確保(実人数)、年間3回以上の成分献血者3,000人確保(実人数)
2	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血6カ月前の400mL献血者 年間10,700人	応諾者2,000人
3	献血依頼メールの送信	複数回献血クラブ会員	血液不足時要請2,000人/年間、応諾率15%以上
4	情報提供メールの送信	複数回献血クラブ会員	1カ月に1回程度の頻度で会員全員に情報提供
5	健康相談事業(健康教室)の実施	複数回献血クラブ会員	1回20人の参加、8回(8日間)実施
6	講演会の実施	複数回献血クラブ会員	40人参加、年1回実施
7	複数回クラブ新規登録キャンペーン	京都府内大学生、専門学校生を主体	新規登録者30人/1回、年6回実施

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血から9カ月間未献血の400mL献血、成分献血者 約2,000人(11月と3月の2回に分けて送付)	応諾者400人

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

大阪府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	学生400mL献血キャンペーンの実施	大学生・専門学校生	協力者数3,000人以上
2	献血おもしろゼミナール開催	小学生(保護者)	16回開催 参加1,200人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業・団体	180社
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	官公庁等	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者数)6,000人以上
2	ハガキによる献血要請	前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者数)15,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	30カ所
4	複数回献血キャンペーンの実施	前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者数)2,000人以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

兵庫県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	18歳の献血キャンペーン	県下全高等学校3年生	16～29歳の献血者構成比を27.5%まで上昇させる。
2	若年者献血キャンペーン	10代、20代	"
3	親子見学会	小学生中高学年	100名参加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規、休眠献血協力企業・団体の確保	新規、休眠献血協力企業・団体	30団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	全献血者	複数回献血者の割合27.5%を達成する。
2	メールによる献血案内	"	"
3	献血会場にて複数回献血会員の勧誘	10歳代～30歳代を中心とした若年層	会員全体の70%以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血ルームにおける献血者サービスの充実	県下献血ルームにおける全献血者	ルームにおける献血者数110,000人。
2	採血バスにおける献血者サービスの充実	県下移動採血車における献血者	バス1稼働の単位数、平成21年1～12月、93.4を95.0に上げる。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

奈良県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	セミナー開催	高等学校、専門学校、短大、大学、団体	2回開催、参加50人
2	はがきによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者650人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施の企業・団体及び献血会場周辺企業等	24社新規登録
2	休眠事業所、団体の再開の働きかけ	休眠事業所、団体	12社登録
3	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体及び少人数の企業・団体	協力団体5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)2,500人以上
3	複数回献血キャンペーン	400mL献血可能者	平均年間献血回数を1.3回に上げる

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	予約制の推進	成分献血者	平日の予約者 5人/日 以上
2	イベント等の開催	献血希望者(センター・ルーム)	上記に含まれる

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

和歌山県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	学生献血推進協議会主催キャンペーン	大学生、専門学校生、一般	年4回、500人以上の献血者を確保する。
2	高校生献血学習	高校生	3校以上で実施し、講習後、献血体験を行う。
3	ハガキによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	左記年齢を対象とした検索を行い、1000人／年に依頼ハガキを出す。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の開拓	献血協力未実施企業	新規登録10社。
2	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体による追加協力	動員協力団体5社確保。
3	休眠企業・団体の開拓	過去5年以上献血未実施の企業・団体	再開拓5社。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	電話・ハガキによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	ハガキ依頼4万人／年
2	企業・団体における年間協力回数の拡大	年1回実施の献血協力企業・団体	10社・団体開拓
3	複数回献血クラブ入会勧誘	複数回献血クラブ未加入者	1000人の新規加入

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校での400mL献血実施	高等学校(18歳になっている生徒)	400mL献血実施校3校開拓
2	高校出前教室の実施	高等学校の文化祭等	2校で実施

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

鳥取県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	研修、セミナーの開催	高校生、大学生、県・市新規採用職員	6回開催 参加200人
2	若年層献血キャンペーン	18歳から29歳の若者	期間中の10代20代の構成比30%以上
3	はがき・Eメールによる献血依頼の強化。	18歳から29歳の成分献血、400mL献血協力者	年間10,000人を目指

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	緊急要請可能な企業の確保	固定施設近隣企業	10社増加
2	休眠企業団体の配車の方法等の拡大	規模縮小により献血実施できなくなった企業、団体	20社
3	事前推進の徹底	献血協力団体	鳥取・倉吉・米子市内の献血協力団体500社
4	ライオンズクラブ等の連携強化	献血推進協力団体	献血推進活動回数を12回増やす。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1 内	メール、はがきによる献血要請・イベント案	複数回クラブ会員。	応諾率30%以上
2	街頭献血におけるはがきによる依頼。	前回採血からの一定期間未献血者	応諾率30%以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増 加。	年1回実施企業。	10企業の増加
4	新規登録者キャンペーンの実施。	複数回クラブ未会員	新規会員500人の登録

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	午前中の献血者確保	固定施設における血小板献血者	午前中の血小板献血者10人を13人まで伸ばす。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

島根県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	大学・高専等の若年層献血セミナーの実施	大学生、高専生、その他若年層	5回、800人
2	高校での献血出前教室の実施	高校生	2回、150人
3	高校、専門学校、短大、大学での学内献血の実施	高校3年生、専門学校生、短大生、大学生	高校20校、専門学校、短大、大学各2回以上
4	若年層向けのイベント・キャンペーンの実施	若年層	2回、300人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	協賛企業の募集	献血協力企業	10社新規登録
2	協賛団体の募集	学生献血推進サークル、ライオンズクラブ	5団体新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールクラブ会員の募集	未加入の献血経験者	400人
2	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)700人以上
3	ハガキによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
4	複数回献血クラブ感謝の集い実施	複数回献血クラブ会員等	1回、300人

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

岡山県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	学生献血推進ボランティア組織への加盟校参加促進	県内各大学、短大、専門学校	新規加盟2校
2	運転免許センターへの移動採血	10代、20代の若者を中心とした献血可能者	68稼動
3	学生献血推進ボランティア組織の研修会開催	岡山県学生献血推進連盟加盟校学生	1回開催、参加40名
4	夏休み小学生親子体験教室	県内各小学生および保護者	15回開催 650名参加 参加校数125校
5	赤十字出前講座の実施	県内各高校の内実施希望校	10校

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力団体の確保	未実施協力団体	30社新規登録
2	年複数回実施協力団体の確保	年1回実施協力団体	30社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
2	はがきによる献血依頼	同一献血会場での過去献血者	応諾者数(実協力者数)12,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	20カ所

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	固定施設における成分献血の確保	血小板成分献血者	血小板成分献血の実献血者を4,500人確保する。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

広島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血セミナー	広島県大学献血推進協議会メンバー	2回実施(150名)
2	大学(短大含む)専門学校・高校献血の実施	大学生(短大生含む)・専門学校生・高校生	移動献血での献血者数:4,200名
3	高校卒業予定者へのリーフレット配布	高校生(卒業予定者)	25,000部配布
4	親子献血教室	小・中・高校生	15回実施600名参加(出張献血教室含む)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力団体の確保	献血未実施団体及び献血会場周辺企業	新規献血団体10団体確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	400mL献血者・血小板献血者	要請者数25,000人
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ登録者	3,000人登録 不足時にタイムリーに要請

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

山口県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	セミナー開催	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	年間15回開催 参加者数 500名以上
2	はがき・電話による協力要請	18~29歳の400mL献血可能者	協力者数14,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体確保	未実施企業及び献血会場周辺企業、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、商工会連合会	20
2	緊急時要請可能な待機型団体の確保	規模縮小等による献血実施できなくなった企業・団体	30
3	成分献血協力団体の拡大	既献血協力団体及び近隣企業、個人	20

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員に対しメールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員(1,100名)	応諾者数(実協力者数)300名
2	複数回献血クラブ「チーム35」情報パンフレット作成	献血者・事業所・行政機関	作成枚数:40,000枚
3	県・市町職員献血協力者名簿の活用	県・市町職員協力者名簿提出者に対しての協力要請	応諾者数(実協力者数)1,000名
4	はがき・電話による協力要請	前回採血から一定期間未献血者	年間 30,000人以上

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	年間を通してのキャンペーン実施(マスメディアとタイアップしたイベント企画)	400mL献血可能者	キャンペーン展開により、一稼働当たりの献血者確保目指す。(46.0人)
2	各協力団体の実施回数増の要請(ライオンズクラブ・ロータリークラブ・青年会議所等)	各会員の更なる協力者を得る。	献血者数10%アップを図る。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

徳島県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	夏休み親子血液ゼミナール	小学生(4~6年生)と保護者	7回開催(参加者350名)
2	JRC献血セミナー	県下JRCメンバー	1回開催
3	学内献血パネル展	県内3大学	3回開催
4	情報誌の利用強化	県内各情報誌読者(10代~30代中心)	10回掲載(キャンペーン告知含む)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺事業所	新規登録(5事業所)
2	休眠企業の掘り起こし	過去に実績のある企業	10事業所

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	複数回メールクラブ会員登録の増加事業	新規登録者	新規登録者400人
2	メールによる献血要請	複数回メールクラブ員	発信回数50回
3	ハガキによる献血要請	誕生日献血(400mL・成分)、成分献血	1000通／月の発送、応諾率18%

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキによる献血要請(移動採血巡回場所)	前回実施市町村での400mL献血協力者	600通／月の発送、応諾率30%
2	懸垂幕の掲示	固定施設付近通行者	1人／日の献血者増員
3	献血協力事業所(日赤有功会)の協力確保	日赤有功会に参加している事業所	2人／1移動採血、40移動採血／年

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

香川県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校生街頭献血キャンペーン	高校生	年間2回 50名
2	高校生献血サポーター	高校生	年間4回 80名
3	献血セミナー	大学・専門学校・高等学校	年間5回 200名
4	施設見学	小学生	年間3回 150名
5	小学校出前講座	小学生	年間10回 300名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	保健所・市町との連携	献血会場周辺企業と自治会等	地域献血での1稼働50人以上
2	新規献血協力企業・団体確保	献血未実施企業・団体	協力団体50社
3	休眠企業の掘り起こし	数年間・献血未実施企業・団体	協力団体50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)200人以上
2	はがき・電話による依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	平日の献血者増	全献血者	2人／日を目標とする。
2	次回献血の予約	成分献血者	6人／日を目標とする。
3	献血協賛事業	献血ルーム近郊の事業所及び専門学校	2人／日を目標とする。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

愛媛県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	学内献血回数の実施増	高校生・専門学校生・短大生・大学生	大学3回、専門学校・短大2回、高校1回
2	学内献血時にボランティアクラブへ協力依頼	学生	呼び掛け協力による献血協力者5%増
3	街頭での献血キャンペーン	18～29歳	夏・冬各1回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	ライオンズクラブ等の紹介による新規開拓	新規企業ならびに、近年協力のなかった企業の開拓	18社の増

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)14,000名
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者および登録者	応諾者数(実協力者数)9,000名

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	愛の助け合い運動の一環として、夏のキャンペーン実施	若年層ならびに初回献血者	2台配車し、180名の献血協力者を獲得
2	はたちの献血キャンペーンの一環として、冬のキャンペーン実施	若年層ならびに初回献血者	2台配車し、180名の献血協力者を獲得
3	テレビ局と共に乳がん検診と共に献血を実施	若年層ならびに初回献血者	1台配車し、80名の献血協力者を獲得

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

高知県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	若年者献血キャンペーン	18~29歳の400mL献血可能者	協力者数400人以上
2	大学・専門学校献血の強化	大学生・専門学校生	協力者数3000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血協力企業・団体の見直し	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規も含め10社登録
2	成分献血協力団体の拡大	献血ルーム周辺の少人数の事業所	5事業所増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回メールクラブ会員	応諾率33.0%
2	メールクラブ会員募集資材の新規作成	400mL、成分献血協力者	登録者500名増加
3	献血実施場所の年間回数増	大学・専門学校	年間200名増加

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	400mL献血推進チラシの作成	全血献血者	400mL構成比移動献血者90%
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	応諾率18%

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

福岡県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	大学生	平成21年度並み
2	学生献血推進協議会加盟促進	大学生等	数校増
3	若年者献血セミナー	高校生	数校増

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	新規	20~30
2	献血協賛企業活動推進	新規及び既献血団体	10

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請(献血ルーム)	複数回献血クラブ会員(血小板)	要請者延数2,000人以上
2	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回採血から一定期間未献血者(血小板)	要請者延数30,000人以上
3	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回採血から一定期間未献血者(400mL)	要請者延数1,000人以上(冬季不足対策)
4	DMIによる会員登録要請及びHLA登録	血小板採血可能者を抽出、DMIにて加入要請	要請者延数3,000人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	60歳代の献血者増加事業	50～60歳代の献血者	献血者年齢構成比3%(3000人)増

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

佐賀県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校生卒業献血	18歳以上で400mL献血・成分献血可能者。	4校以上、400mL・成分献血参加者300人以上
2	大学・短大・専門学校生献血及びセミナー開催	18歳以上で400mL献血・成分献血可能者。	4校年2回以上、参加者1,000人以上
3	献血教室	高校生	4校以上、参加者800人以上
4			

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規登録10団体
2	血液不足時の緊急処置的対応可能な企業の確保	不足時に協力可能な待機型の団体	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血及びイベントのお知らせ	複数回献血クラブ会員	応諾者数30%以上
2	パンフレット配布による登録依頼	年2回以上の献血者	献血者全体の32%以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	HLA血小板登録者の確保	血小板の可能な献血者	登録者を月20名、年間250名確保する

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

長崎県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	固定施設及び移動献血での献血キャンペーンの実施	一般及び若年者層	年5回以上のキャンペーン開催
2	学生ボランティアの研修及び新規募集活動	大学生及び専門学校生	センター主催で3回、九州ブロックで3回実施
3	大学学園祭での献血と学生ボランティアの活用	大学生及び専門学校生	年間5回以上の実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規及び掘り起こし事業所、団体等の開拓	献血未実施及び献血会場周辺事業所、数年未実施の事業所	月間5社以上の開拓を目標
2	ライオンズクラブ、青年会議所等の協賛	会員及び関連事業所	月間1団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	複数回献血者並びに赤十字ボランティア研修会	複数回献血協力者及び献血協力者・赤十字ボランティア	50名
2	メールとはがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾数 100名以上
3	「献血をして映画を観に行こう」キャンペー	400mL、成分献血協力者	70組(140名)

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	商業施設の休日献血の拡大	一般	7か所で年3回以上
2	DM及び新聞折り込みチラシによる献血依頼	一般	月10か所以上
3	高校献血での400mL献血の推進強化	高校生及び職員	10校以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

熊本県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	成人式での献血推進パンフレットの配布	県内新成人(成人式参加者)	14,000人
2	血Cオープンキャンパス	県内高校生	高校生の参加50名
3	県内全大学・専門学校への血C情報誌の配布	県内大学生専門学校生	年4回発行 県内60校に配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	広報資材(血C情報誌)の活用	献血協力企業及び団体	全献血会場及び団体へ年4回の配布
2	新規事業所及び団体の実施	新規事業所及び団体	年間10社(10団体)程度の確保
3	ロゴマークの配布	献血協力企業及び団体	提供事業所を80社にする。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数1,000人以上
2	ハガキによる献血依頼	献血登録者・依頼応諾者	応諾者数1,000人以上
3	複数回献血推進用パンフレット等作製	献血者	
4	会員向けイベントの開催と情報誌による募集	複数回献血クラブ会員・献血者	会員向イベント2回/年 会員2,000名

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	バースディハガキによる献血依頼	依頼応諾者	固定施設(ルーム2ヶ所)各3名/日の増加
2	モーニングキャンペーンの実施	ルーム来場者(午前中)	固定施設(ルーム2ヶ所)各3名/日の増加

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

大分県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	学内献血時ハガキによる献血要請(一緒に献血)	学生(大学・短大)、専門学校生	現行2,200人を300人アップの2,500人
2	献血セミナーの開催	学推協加盟校学生	10回(参加者:500人)
3	若者が好む献血記念品の採用	学域を除く職域、地域	実協力者:300人アップ

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	送迎による献血協力団体の確保	献血会場周辺	50団体確保(実協力者:200人)
2	新規協力企業、団体の確保	進出企業、既存の組織的な団体	10団体確保(実協力者:200人)

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキによる献血要請	地域・学域・官公署における献血者	実協力者:500人アップ
2	複数回献血会員への勧誘	街頭献血時の献血者	新規会員240人確保
3	ライオンズクラブ献血の実施回数増	ライオンズクラブ関係企業、団体及び地域住民	10クラブ、300人確保

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	キャンペーンの実施	400mL・成分献血者	年間通算8ヶ月間実施し、年間500人確保
2	成分献血者の送迎	献血ルーム周辺企業・官公署・大学・短大・専門学校	週1回実施(2名)し、年間120人確保
3	次回の成分献血予約の推進	成分献血者	1日2名目標に年間500人確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

宮崎県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	ハガキによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者1,000人以上
	高校・大学・専門学校における学内献血の推進	18~22歳の若者	学内献血実施を10箇所増加
	JRC研修会	教職員・高校生	2回
	若年層献血キャンペーン(サマー献血キャンペーン)	18~29歳の若者	協力者数800人、期間中の10代20代献血者構成比30%

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規開拓企業・団体 70社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
	メールによる献血要請	複数回クラブ会員	応諾者数(実協力者数)700人
	新規複数回献血者確保	一般献血者	応諾者数(実協力者数)500人
	はがきによる献血要請	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)7,000人

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

鹿児島県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	楽しく学ぼうキッズ献血の開催	小学生及び保護者	1日2回3日間 参加者300人目標
2	献血講座の実施	10代20代対象	10回10日間 参加者1000名
3	学生献血推進キャンペーンの実施	短大・大学・専門学校生	5回開催 参加者200人
4	はがきによる献血要請	18歳～29歳の400mL献血可能者	協力者20,000人以上
5	市町村との協働による若年層対策事業	18歳～39歳の400mL献血可能者	10回開催 参加者600名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業、団体の確保	鹿児島市地域	新規に14団体
2	献血協賛企業、団体への推進活動	献血協力企業、団体	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数2,000名
2	ハガキによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数1,700名
3	ハンド・マッサージの実施	複数回献血クラブ会員への広報	一回あたり20名
4	献血予約制度の充実	献血にお越しいただいた方	一ヶ月150名
5	救急法の一日講習会	複数回献血クラブ会員	40名×3回=120名

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	400mL献血推進キャンペーンの実施	400mL献血可能対象者	献血バス1稼働あたり45人
2	はがきによる400mL献血依頼	400mL献血経験者	約30,000人に郵送

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

沖縄県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校献血の推進	県内各高等学校	25校以上
2	学生献血推進協議会の活性化	各種学校・大学	在籍5校以上
3	献血教室の開催	小・中・高校、各種学校	献血教室20回、受講1,500人以上
4	専門学校献血の推進	県内各専門学校	20校以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	休眠協力企業・団体の復活	実施が途絶えている企業・団体	10団体以上
2	新規協力企業、団体の開拓	未実施の企業、団体	10団体以上
3	複数回献血協力企業、団体の開拓	年1回実施の企業、団体	10団体以上
4	街頭献血実施場所の開拓	集客力のある商業施設等	5か所以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数200名以上
2	ハガキによる献血依頼	献血間隔基準をクリアしている既献血者	応諾者数3600名以上
3	電話による献血依頼	献血間隔基準をクリアしている既献血者	応諾者数2200名以上
4	処遇品の見直し	各種依頼応諾者による献血者	処遇品6000個以上